HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	西フリジア語の文法構造 : 冠詞、名詞、形容詞
Author(s)	清水, 誠
Citation	北海道大學文學部紀要, 45(1), 21-81
Issue Date	1996-08-09
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/33672
Type	bulletin (article)
File Information	45(1)_PL21-81.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

北大文学部紀要 45-1 (1996)

西フリジア語の文法構造 ── 冠詞，名詞，形容詞 ──

清 水 誠

Struktuer fan it Westerlauwersk Frysk

── lidwurd, haadwurd, eigenskipswurd ──

(*The Annual Report on Cultural Science* 45-1 (No.88). The Faculty of Letters. Hokkaido University. Sapporo. Japan. 1996. ISSN 0437-6668)

SHIMIZU Makoto

形態 (de foarmlear) と統語 (de sinlear)

I 冠詞 (it lidwurd)

§26 定冠詞 (it bepaalde lidwurd)

(1) 基本形

定冠詞には基本形と弱形がある。まず，基本形を扱う。

基本形には de [də] と it [ət] があり，名詞の前に置く。単数では文法性の区別に応じて de を両性名詞，it を中性名詞に用いる。複数では性の区別なく de を用いる。格による区別はなく，無変化である。

基本形は一部の慣用句 ((2)(d)) を除いて広く用いる。

		単数	複数
両性：(人)		de soan「息子」	de soannen
		de dochter「娘」	de dochters
	(物事)	de dyk「道」	de diken
中性：(人)		it famke「女の子」	de famkes
	(物事)	it aai「卵」	de aaien

(2) 弱形

(a) まとめ

定冠詞には弱形 'e [ə] (← de) と 't [t] (← it) がある。弱形はおもに前置詞の直後で用い，正書法上は一語として独立させてつづるが，発音上は直前の前置詞に続けて発音する（例. op 'e [opə]；yn 't [int]）。弱形は口語的であり，あらたまった書き言葉では基本形が好まれることが多く，文章でどちらを用いてつづるかは個人的に揺れがある。ただし，慣用句では弱形だけが用いられることがある。't [t] と 'e [ə] は使用条件が異なる。

		単数	複数
両性：(人)		'e soan「息子」	'e soannen
		'e dochter「娘」	'e dochters
	(物事)	'e dyk「道」	'e diken
中性：(人)		't famke「女の子」	'e famkes
	(物事)	't aai「卵」	'e aaien

☞ 弱形はドイツ語の zu＋dem → zum，zu＋der → zur，an＋das → ans などの一連の融合形を想起させる。ただし，ドイツ語では融合形を用いるか否かは指示性の強さによる。すなわち，融合形を用いないのは指示性が強い場合であり，アクセントを伴った定冠詞は指示代名詞としてはたらいている。しかし，西フリジア語では定冠詞（de：中性単数以外，it：中性単数）と指示代名詞（dy：中性単数以外，dat：中性単数）の語形が異なるので，定冠詞の基本形と弱形の使用条件は指示性の強さとは関係が薄い。

(b) 弱形 ’t

弱形 ’t は前置詞の種類に関係なく広く用いる。

op {it/’t} fabryk「工場で」　yn {it/’t} boek「本の中に」
oan {it/’t} iten「食事中に」　fan {it/’t} bêd ôf「ベッドから」
nei {it/’t} wurk「仕事へ」　foar {it/’t} finster「窓の前に」
oer {it/’t} lân「土地の上空に」

ただし，ût {it/’t} doarp「村から」のようにtで終わる前置詞の直後では，’t とつづっても［ət］と読む。

☞ 弱形は直前の前置詞に「連接形」(it klitik) として付随しており，「連接形」と呼ぶこともできる (Visser 1988a)。
☞ 代名詞 it の弱形 ’t は前置詞の直後以外で広く用いる。
’*t* Is skande.「それは恥ずかしいことだ」(ULI’S, C 4: 11)
Ik mei ’*t* wol lije.「私はそれは嫌いではない」(Bangma 1993[2]: 27 変更)

(c) 弱形 ’e［ə］

弱形 ’e には次のような使用制限がある。

① m，n，閉鎖音で終わる1音節の前置詞

弱形 ’e はおもに m と n を含む閉鎖音で終わる1音節の前置詞とともに用いる (Zantema 1984: 156, Visser 1988a: 191)。

yn {de/’e} krante「新聞に」　fan {de/’e} slachter「肉屋の」
oan {de/’e} loft「空に」　op {de/’e} fyts「自転車に乗って」
ût {de/’e} stêd「町の外に」　neist {de/’e} skoalle「学校の横に」
om {de/’e} tafel「テーブルの回りに」

それ以外の前置詞ではあまり用いない (Tiersma 1985: 48, Visser 1988a: 191)。

oer {de/(’e)} holle「頭の上を」　foar {de/(’e)} doar「ドアの前で」
troch {de/(’e)} hage「生け垣を通って」
ûnder {de/(’e)} brêge「橋の下に」

② 前置詞の直後以外の発音

①の前置詞の直後以外でも，口語では閉鎖音で終わる1音節の語の直後では弱形の発音［ə］が見られる。ただし，つづりとしては de，it と書

く。(Van der Meer/De Graaf 1986: 314f., Visser 1988a: 190f.)。つまり，弱形 'e，'t は特定の前置詞の直後だけに見られる正書法上の語形であり，[ə]，[t] という弱形の発音じたいはそれ以外でも見られる。

it dak fan it hûs en *de* ([ə]) skuorre「家と納屋の屋根」(Visser 1988a: 190 変更)

Jelle en *de* ([ə]) frou「イェレとその妻」(ib. 190 変更)

Ik rin *de* ([ə]) hiele dei.「私は 1 日中歩く」(ib. 191 変更)

(d) 弱形だけを用いる表現

次のような慣用句には弱形 'e，'t だけを用いる。

① 'fan {'e/'t}＋名詞'

'fan {'e/'t}＋名詞' は時間を表わす名詞とともに用いて，もっとも近い時を指す。

fan 'e moarn「今朝」　　fan 't jier「今年」

fan 't foarjier「今年の春」

☞ fan de moarn，fan it jier のように基本形を用いた場合には，上記の意味の表現にはならない。

☞ この表現は語彙的に固定している。たとえば *fan 'e moanne「今月」とは言わず，dizze moanne「今月」と言う。

四季の名称 maitiid「春」，simmer「夏」，hjerst「秋」，winter「冬」，それに wike「週」は両性名詞だが，'fan {'e/'t} ..' のように両性と中性の弱形がともに可能である (②)。

fan {'e/'t} wike「今週」(← de wike「週」)

Hy hat *fan {'e/'t} simmer* nei Ljouwert ta west.「彼は今年の夏にリャウエト (オ．Leeuwarden レーワルデン) に行った」

Ik sil *fan {'e/'t} hjerst* nei Fryslân ta.「私は今年の秋にフリースラントへ行くつもりだ」

② 'by 't＋名詞'，'yn 'e＋名詞'

不特定の年の季節名などについて「.. (のあいだ) に」という意味で用いる。両性の季節名については '*by 'e＋名詞' の組み合わせはなく，文

法性による区別にかならずしも対応せずに固定している。

{by 't/yn 'e} moarntiid「朝に」　{by 't/yn 'e} simmer「夏に」

by 't simmerdei「夏の日に」

Fierders hat er *by 't simmer* wolris in pear fôlen te weidzjen. Dy ferkeapet er *by 't hjerst* wer, want dêr wol er winterdeis net mei piele. *Yn 'e maitiid* set er altyd in stik of sân kuorren út. Dêr kinne de einen dan moai yn briede.「そのほかに彼は夏に子馬を2，3頭飼育することがある。それは秋にはまた売りに出す。冬に世話するのがいやだからだ。春には七つほど籠を出しておく。そうすればアヒルたちがその中でうまく卵を産めるというわけだ」(ULI'S, B 11: 13 変更)

ただし，中性の季節名 foarjier「春」，neijier「秋」にはつねに中性形を用いる。

{fan 't/*fan 'e} foarjier「今年の春」

{fan 't/*fan 'e} neijier「今年の秋」

{by 't/yn 't/*by 'e/*yn 'e} foarjier「春に」

{by 't/yn 't/*by 'e/*yn 'e} neijier「秋に」

☞ このほかに，'by de＋季節名' のように基本形を用いた表現がある。
by de hjerst「秋に」(Zantema 1984: 403)　by de maitiid「春に」(ib. 594)

☞ 'te＋季節名' という表現もある。
te {maitiid/simmer/hjerst/winter}「{春/夏/秋/冬} に」

(3) 古形のなごり

かつての格変化のなごりとして，特定の表現にその他の定冠詞の語形が見られる (Boersma/Van der Woude 19802: 27)。

① 'en：かつての男性単数対格

op 'en doer「最後には，結局」　op 'en nij「新たに」

op 'en bêsten「いちばんうまくいった場合でも，せいぜい」

② der：かつての女性単数与格

byderhant「りこうな」

byderhânsk「(馬が) いちばん右側を走っている，右側にある」

yndertiid「当時」　　meidertiid「時とともに」

③ 'e：かつての中性単数与格

中性名詞 hûs「家」は '前置詞＋'e hûs' という表現で「自分の家..」を意味する。

yn 'e hûs wêze「自宅にいる；未婚である」

ût 'e hûs wêze「自宅の外にいる；嫁いでいる」

⇔ yn 't hûs「その家の中に」　　ût 't hûs「その家から」

☞ 次の表現の 'de hûs ût' は「自分の家を出て」を意味する。これは 'ût 'e hûs'「自分の家から」の前置詞 ût を後置詞とし，弱形 'e をそのまま基本形 de で継承して再解釈したものと考えられる。
Wy koene bêst wat lytser wenje, no't de bern *de hûs ût* binne.「もう子供たちも家を出たのですから，もっと小さな家に住んでもいいんじゃないかしら」(Bangma 1993[2]: 64)

(4) 地名と冠詞

(a) 無冠詞の地名

一般に町や国の名前には定冠詞をつけないが，形容詞や前置詞句などの修飾語を伴うときにはつける。

Fryslân is moai.「フリースラントは美しい」

Dit is in boek oer *it âlde Fryslân*.「これは昔のフリースラントについての本です」(ULI'S, A 1: 13 変更)

ただし，「全..」を伴うときには定冠詞をつけず，hiel に語尾 -e をつけて用いる。

hiele Fryslân「全フリースラント」⇔ de hiele wrâld「全世界」

次の表現の差に注意。

{*ϕ/it} Fryslân fan 'e 17de ieu「17 世紀のフリースラント」

{ϕ/*it} Fryslân yn 'e 17de ieu「17 世紀におけるフリースラント」

(b) 定冠詞を伴う地名

例外的にかならず定冠詞を伴う地名がある。

De Lemmer「デ・レメル（オ．Lemmer レメル）」

De Jouwer「デ・ヤウエル（オ．Joure ヤウレ）」

It Amelân「エト・アーメローン島（オ．Ameland アーメラント島）」

It Bilt [ədbÍlt]「エド・ビルト（オ．Het Bildt エド・ビルト）」

§ 27 不定冠詞（it ûnbepaalde lidwurd）

(1) まとめ

不定冠詞は in [ən] であり，単数で文法性の区別なく名詞の前に置く。格による区別もなく，無変化である。複数形はない。

		単数	複数
両性：(人)		in soan「息子」	soannen
		in dochter「娘」	dochters
	(物事)	in dyk「道」	diken
中性：(人)		in famke「女の子」	famkes
	(物事)	in aai「卵」	aaien

(2) 用法

(a) 不定冠詞の有無

職業・身分・国籍を示す名詞が動詞 wêze「..である」，wurde「..になる」，bliuwe「..のままである」などの補語になる場合には，一般に不定冠詞をつけない。

Ik bin *studint*.「私は学生です」

De klant is *kening*.「お客様は王様です」

Durk is *Fries*.「デュルクはフリジア人だ」

しかし，形容詞(句)や前置詞句などの修飾語を伴うときにはつけることが多い。

Durk is *in berne Fries*.「デュルクは生粋のフリジア人だ」

次の例では agrarysk ûndernimmer「農業企業家」が全体で１語の合成語

のようになっているので（§ 34 (2)(c)⑤），形容詞 agrarysk「農業の」があっても冠詞がつかない。

Hjoeddedei giet alles masinaal. De boer is *agrarysk ûndernimmer* wurden.「今日ではすべて機械がやる。農民は農業企業家になってしまった」(ULI'S, C 20: 2)

(b) 不定冠詞 in「およそ，約」

不定冠詞 in は「およそ，約」の意味で複数形でも用いる。

in tritich manlju「約 30 人の男の人」

in jier twa-trije「2，3 年ほどの間」(Tamminga 1973: 212)

in man fan in jier of fyftich「50 歳くらいの男の人」(ULI'S, B 6: 8)

Hy (=O. Postma) wie al *in tritich jier* âld doe't syn earste gedichten yn "Ferjit-my-net" opnommen waarden.「彼（=O. ポストマ）は初期の詩が『忘れな草』に収められたとき，すでにほぼ 30 歳になっていた」(Sitenstra 1982: 127)

☞ オランダ語も同様。

(3) 数詞 ien [iən]

「{ひとつの/ひとりの}...」と数えるときには数詞 ien を用いる。

		単数
両性：	(人)	ien soan「息子」
		ien dochter「娘」
	(物事)	ien dyk「道」
中性：	(人)	ien famke「女の子」
	(物事)	ien aai「卵」

§ 28 否定冠詞 (it Ûntkennende lidwurd)

(1) まとめ

否定冠詞は gjin [gjIn] であり，単数・複数で文法性の区別なく名詞の前

に置く。格による区別はなく，つねに無変化である。

		単数	複数
両性：	(人)	gjin soan「息子」	gjin soannen
		gjin dochter「娘」	gjin dochters
	(物事)	gjin dyk「道」	gjin diken
中性：	(人)	gjin famke「女の子」	gjin famkes
	(物事)	gjin aai「卵」	gjin aaien

(2) 用法

否定冠詞は不定冠詞のついた名詞句や無冠詞の名詞句を否定するときに広く用いる。

Wy hawwe *gjin* bern.「私たちは子供がいません」

De tiid hâldt *gjin* skoft.「歳月人を待たず（＝時は休みをとらない。ことわざ）」

Anne Wadman is *gjin* Friezinne, mar Fries.「オーネ・ヴァトモン（作家）は女性のフリジア人ではなく，男性のフリジア人だ」

☞ 英語（not [a]＋名詞）のように否定詞 net を用いて 'net [ien]＋名詞' のようにするのは，強い否定（「ひとつも...ない」）を表わす場合にとどまる。

☞ gjin は 19 世紀に従来の nin（古フ．nên）にかわってオランダ語の geen [γe:n] を借用したものである。

II 名詞（it haadwurd）

§29 文法性（it genus, it grammatikaal geslacht）

(1) まとめ

名詞には「両性」(it utrum) と「中性」(it neutrum) のふたつの文法性がある。文法性は自然性（de sekse, it natuerlik geslacht）とは別であり，個々の名詞について決まっている。どちらの文法性に属するかは判断できな

いことが多いが，意味や接辞が決め手になることもある。文法性の区別は形容詞や代名詞にも反映するが，典型的には定冠詞の単数形に示され，両性名詞では de，中性名詞では it となる。俗に「de- 名詞」(de-wurden)，「it- 名詞」(it-wurden) と呼ぶこともある。

☞ 両性はかつての「男性」と「女性」の区別が失われてひとつになったものである。標準オランダ語のような男性名詞と女性名詞の微妙な区別はない。ただし，古めかしい文章では抽象名詞などを 3 人称代名詞女性形で受ける例が見られる（§ 37 (4)(b))。かつての男性，女性，中性の 3 性の区別はスキエルムンツェアハ島（Skiermûntseach; オ．Schiermonnikoog スヒールモニコーホ島）の方言だけに残っている。

☞ utrum の訳語として「通性」，「共性」などが用いられることがある。発音上，「通性」は「中性」とまぎらわしく，「共性」は「強勢」とまぎらわしいので，本書では「両性」を用いる。

(2) 文法性の区別

文法性の区別は判断できないことが多いが，次の基準は有効である。

(a) 両性名詞

① 人を示す名詞

de frou「女の人，妻」　de man「男の人」　de slachter「肉屋」
de kok「コック」　de minske「人間」

例外。

it bern「子供」　it jong「(動物の) 子」　it famke「女の子」

蔑称の意味があるものに注意。

it wiif「女（蔑称)，妻」　it fanke「小娘（蔑称)」
it minske「女（蔑称)，人間（蔑称)」

"*Dat minske* leit my net." "Unsin. Dy frou is bêst genôch."「あの女ったら気にくわないわ」「そんなばかな。あの女性はとてもいい人だよ」(Bangma 1993[2]: 27)

☞ it fanke「小娘（蔑称)」には複数形がない。

② 四季，月，曜日

de maitiid「春」　(de) jannewaris「一月」　(de) snein「日曜日」

③ 数字，文字，音符

de trije「3」　de x「x」　de do「ド（音符）」

④ 接尾辞-de，-dom，-ens，-heid，-(er)ij，-ing，-nis，-aasje/-aazje による抽象名詞

de leafde「愛」　de frijdom「自由」

de twataligens「二言語使用」　de wierheid「真実」

de fiskerij「漁業」　de skieding「分離」

de skiednis「歴史」　de {sitewaasje/situaasje}「状況」

接尾辞 -te と -t(m)e に注意。両性名詞は形容詞から派生した場合である。

de wiidte「広さ（抽象名詞）」(← wiid「広い」)

⇔ it fûgelt(e)「鳥肉（集合名詞）」(← fûgel「鳥」)

de skient(m)e [skjÍnt(m)ə]「清潔さ」(← skjin [skjIn]「清潔な」)

de stilt(m)e「静けさ」(← stil「静かな」)

⇔ it brûkme「使用」

(b) 中性名詞

① 国，州，町などの地名

Switserlân「スイス」　Frankryk「フランス」

Frjentsjer「フリエンチェル（オ．Franeker フラーネケル）」

Skylge「スキルヘ島（オ．Terschelling テルスヘリング島）」

定冠詞 It を伴うものがある。

It Amelân「エト・アーメローン島（オ．Ameland アーメラント島）」

It Hearrenfean「エト・イエレンフェアン（オ．Heerenveen ヘーレンヴェーン）」

It Bilt [əd bÍlt]「エド・ビルト（オ．Het Bildt エド・ビルト）」

定冠詞 De を伴うものもある。

De Wâlden「デ・ヴォーデン（フリースラント州東部の森林地帯，オ．

De Wouden デ・ヴァウデン)」

De Fochtel「デ・フォホテル（オ．Fochteloo フォホテロー)」

De Lemmer「デ・レメル（オ．Lemmer レメル)」

De Jouwer「デ・ヤウエル（オ．Joure ヤウレ)」

町の名前の場合には定冠詞 De を伴っていても中性の扱いを受ける。

it om syn klokmakkerij ferneamde De Jouwer「柱時計の製造で有名なデ・ヤウエル」(Hoekema 1992: 23)

② 言語名

it Frysk「フリジア語」　　it Nederlânsk「オランダ語」

yn it Frysk「フリジア語で」

⇔ Frysk leare「フリジア語を学ぶ」

Frysk prate「フリジア語を話す」

☞「フリジア語を話す」という意味で *Frysk sprekke とは言わない。sprekke は「公の場で話す，表明する」の意。オランダ語では Fries spreken「フリジア語を話す」と言える。

③ 縮小形

it kopke（← de kop)「コップ」　it kealtsje（← de keal)「子牛」

it tsjerkje（← de tsjerke)「教会」

④ 不定詞の名詞化

(it) drinken（← drinke「飲む」)「飲むこと」

(it) sliepen（← sliepe「眠る」)「眠ること」

⑤ 接尾辞 -sel（動詞から派生)，-isme による派生名詞

it baksel「(オーブンで焼いた）菓子類，クッキー，ビスケットなど」(← bakke「(オーブンなどで）焼く」)

it nasjonalisme「民族主義」

接尾辞 -te（名詞から派生，集合名詞）に注意。

it beamte [bjémtə]「木立（集合名詞)」(← beam [bIəm]「木（名詞)」)

⇔ de romte「空間（抽象名詞)」(← rom「広い（形容詞)」)

⑥ 接頭辞 be -，fer-，ge-，ûnt- による派生名詞

it besit「所有」　it ferlies「損失」　it gefaar「危険」

it ûnthâld「記憶」

ただし，両性名詞を派生する接尾辞がつかない場合にかぎる ((3)(a))。

de begelieding「同伴」(-ing)　de ferpleechster「看護婦」(-ster)

de gefalligens「好意」(-ens)　de ûntjouwing「発展」(-ing)

(c) 文法性の区別が揺れている名詞

① {de/it} apteek「薬局」　{de/it} betingst「条件」

{de/it} ezel「ロバ」　{de/it} tûn「庭」

次の語については(d)も参照。

{de/it} ein「終わり，部分」　{de/it} stof「素材，布地」

{de/it} seal「広間」　{it/de} hier「髪」

② 接尾辞 -skip による派生名詞

両性名詞と中性名詞の両方を含み,語によって文法性が決まっている。

de blydskip「喜び」　de freonskip「友情」

de mienskip「共同体」

⇔ it lânskip「風景」　it selskip「社会，協会」

it liederskip「主導権」

(d) 語形が同じで文法性の区別によって意味が異なる名詞

de bier「担架，ひつぎ」⇔ it bier「ビール」

de moed「勇気；あざ，跡」⇔ it moed「精神，気分」

de sin「文，意味」⇔ it sin「気持ち，意図」

de Skrift「聖書」⇔ it skrift「筆跡，文字，書き物」

de stek「刺すこと；刺すような痛み」⇔ it stek「柵」

de waar「品物」⇔ it waar「天気」

de ein「アヒル」⇔ {de/it} ein「終わり，部分」

it stof「塵，ゴミ」⇔ {de/it} stof「物質，素材」

it seal「(自転車の) サドル」⇔ {de/it} seal「広間」

de hier「家賃」⇔ {it/de} hier「髪」

(3) 派生語と複合語の文法性

(a) 派生語が接尾辞と接頭辞を伴う場合

次の例のように文法性は接尾辞に従う ((2)(b)⑥)。

de behoefte「必要，欲求」(← it behoef「必要」+-te)

de bestjoerder「管理者」(← it bestjoer「管理，運営」+-er)

(b) 複合語の文法性

最終成分の名詞の文法性に従う。

it seefolk「海洋民族，漁民」(← de see「海」+it folk「民族，人々」)

de bernewein「乳母車」(← it bern「子供」+de wein「車」)

it autowaskplak「洗車場」(← de auto「自動車」+de wask「洗浄」+ it plak「場所」)

§30 数 (it tal)

(1) まとめ

数には「単数」(it iental) と「複数」(it meartal) がある。複数形は2種類の語尾 -en, -s (-'s) で作る。その使い分けは名詞の語形からほぼ判断できる。-s (-'s) は比較的少数の場合に限られる。そのほかに特殊な形をもつ語がいくつかある ((2))。語尾 -en による複数形では短母音化 (§9) や「割れ」(§10) を伴うことがあり ((3))，そのほかに正書法上の交替を起こすものもある ((4))。数量の単位を示す名詞には2以上でも単数形を用いるものがある ((5))。数の一致には特殊な場合があり，注意を要する ((6))。

(2) 複数形の種類

(a) 語尾-en によるもの

語尾 -s (-'s) をとる少数の場合を除いて広く用いる。

① アクセント (副アクセントを含む，以下同様) をもつ音節で終わる名詞の大部分。ただし，(b)②の外来語を除く。

i) 主アクセント：

blom「花」→ blommen　　kanaal [kaná:l]「運河」→ kanalen

see「海」→ seeën　　teory［tIorí］「理論」→ teoryen

ii）副アクセント（次の例に限って「｀」で示す）：

rykdom［ríkdȍm］「富」→ rykdommen

selskip［sɛ́lskÌp］「社会，協会」→ selskippen

swierrichheid［swÍrəxhÌt］「困難」→ swierrichheden（-heid → -heden に注意，(d)①）

② (b)の縮小形や最近の外来語の一部を除く，アクセントをもたない -e［ə］で終わる名詞

lampe「電灯」→ lampen　　tsjerke「教会」→ tsjerken

libbene「生者」→ libbenen　　type［típə］「型」→ typen［típən］

(b) 語尾 -s（-'s）によるもの

比較的少数の名詞。

① アクセントをもたない閉音節で終わる次の名詞

i）-el［əl］，-em［əm］，-en［ən］，-er［ər］，-ert［ət］で終わる名詞

fûgel「鳥」→ fûgels　　lichem「体」→ lichems

libben「生命」→ libbens　　ljedder「階段」→ ljedders

sloffert「だらしない人」→ slofferts

ただし，次のような語は例外。

kristen「キリスト教徒」→ kristenen

heiden「異教徒」→ heidenen/heidens

ii）縮小形（-ke; -tsje, -je）

kopke（← kop）「コップ」→ kopkes

leppeltsje（← leppel）「スプーン」→ leppeltsjes

túchblikje（← túchblik）「ちりとり」→ túchblikjes

iii）縮小形に由来する -e［ə］で終わる次の親族名称

omke「伯父」→ omkes　　muoike「伯母」→ muoikes

ただし，次の語は例外。

pake「祖父」→ pakes/paken　　beppe「祖母」→ beppes/beppen

② 最近の外来語の一部

-s と -'s の使い分けに注意。

i) -s

子音で終わる名詞，および次の ii) 以外の母音で終わる名詞

roman「長編小説」→ romans　　horloazje「腕時計」→ horloazjes

diktee [dIktḗ:]「口述筆記」→ diktees [dIktḗ:s]

hobby [hóbi]「趣味」→ hobbys [hóbis]

ii) -'s

母音で終わる名詞のなかで -s をつけると語末母音が正しく発音されないおそれがあるもの

auto [ɔ́uto:, ó:to:]「車」→ auto's [ɔ́uto:s, ó:to:s]（*autos とすると *[ɔ́utos, ó:tos] などと発音されるおそれがある）

nivo [nivó:]「水準」→ nivo's [nivó:s]（*nivos とすると *[nivós] などと発音されるおそれがある）

☞ sebra [sḗ:bra]「シマウマ」の複数形は Zantema（1984：846）によれば sebra's [sḗ:bras] とつづる。しかし，本来，これは sebras [sḗ:bras] としてもさしつかえないはずである。

少数の名詞は例外的に以下のような複数形になる。

(c) 無変化のもの

少数の中性名詞。

bern [bɛ:n, bɛn]「子供」→ bern　skiep「羊」→ skiep

☞ これは古くは中性名詞（強変化）の複数形が無語尾だったことのなごりである。

(d) 特殊な語尾や語幹の変化を伴うもの

① -heid [hit (hait, hɛit)] →-heden [he:dən]（抽象名詞の接尾辞）

ienheid「単位」→ ienheden　　mallichheid「愚行」→ mallichheden

② -ens（←-en-s 重複複数）

lears「長靴」→ learzens　　gefoel「感情」→ gefoelens

reed「スケート」→ redens（ただし，reed「のぼり道」→ reden）

③ -man →-lju

buorman「隣人」→ buorlju

man「男の人；人」と frou「女の人」は複数形によって意味が異なる。

man [mɔn] → manlju [mɔ́:ⁿljø] (個別的)/mannen (集合的)/man (男女の区別なく人員数)

trije manlju「3人の男の人」　　trije man「3名」

de kening en syn mannen「王とその家来たち」

de mannen fan it tsjerkebestjoer「教会運営関係者」(Bosma-Banning 1981²: 105)

frou [frɔu] → froulju [frɔ́:ljø] (個別的)/frouwen (集合的)

④ その他

ko「乳牛」→ kij [kɛi]　　skoech「靴」→ skuon [skwon]

dei「日」→ dagen　　wei「道」→ wegen

lid「手足，成員」→ leden/lea (ただし，lid「蓋，まぶた」→ lidden)

âlder「親」→ âlders/âlden

(e) 語尾が一定しないもの

① 接尾辞 -ing [Iŋ] で終わる名詞：-s/-en

oersetting「翻訳」→ oersettings/oersettingen

betrekking「関係」→ betrekkings/betrekkingen

☞ 語尾 -en はオランダ語の影響による。

ただし，-ling [lIŋ] で終わる名詞は -en のみ (ULI'S, C 14: 10; Van der Woude 1981: 126)。

learling「見習い，生徒」→ learlingen

wezeling「イタチ」→ wezelingen

② -ier [ɪər] で終わる名詞

-s，-en，-en/-s のいずれか語によって決まっている。

pionier「開拓者」→ pioniers　　kertier「4分の1」→ kertieren

gernier「菜園農夫」→ gernieren/gerniers

③ -um [əm] で終わるラテン語からの借用語：(-um)-s/-a

gymnasium「ギムナジウム（大学進学前の中等教育機関）」→ gymnasiums/gymnasia

datum「日付」→ datums/data

④ -us [əs] で終わるラテン語からの借用語の一部：(-us)-sen/-y

katalogus「カタログ」→ katalogussen/katalogy

ただし，histoarikus「歴史学者」→ histoarisy [hIstóəri(t)si]

⑤ その他

broer「兄弟」→ bruorren/broers

bean(e) [bÍən(ə)]「大豆」→ beanne(n) [bjɛ́nə(n)]/beane(n) [bÍənə(n)]

eart(e) [jɛ́t(ə), Íət(ə)]「エンドウ豆」→ earte(n) [jɛ́tə(n), Íətə(n)]

(3) 短母音化（§9），「割れ」（§10）を伴うもの

語尾 -en による複数形は音節数が増えることになるので，短母音化や「割れ」を伴うことがある。これは語彙によって決まっており，特定できない。

(a) 短母音化

baarch [ba:rx]「豚」→ bargen [bárɣən]

lân [lɔ:n]「国，土地」→ lannen [lɔ́nən]

rôt [rɔ:t] → rotten [rɔ́tən]「ネズミ（mûs より大型）」

(b) 「割れ」

trien [triən]「涙」→ triennen [trjÍnən]

sleat [slIət]「堀，水路」→ sleatten [sljɛ́tən]

boerd [buət]「板，黒板」→ buorden [bwɔ́dən]

moarn [moən]「朝」→ moarnen [mwánən]

flues [flyəs]「膜」→（稀 fluezzen [fljøzən])/fluezen [flýəzən]

(4) 正書法上の注意

(a) 子音字の重複（§ 24 (1)）

とくに語尾 -en による複数形では，閉音節と開音節の区別や「割れ」の有無に応じて子音や母音を重複させる。

dak [dak]「屋根」→ dakken [dáken]

⇔ kraan [kra:n]「蛇口」→ kranen [krá:nən]

tean [tIən]「足の指」→ teannen [tjénən]

⇔ lean [lIən]「賃金」→ leanen [lÍənən]

(b)「語末音の無声化」（§ 14）

① 閉鎖音

閉鎖音 b [p]/[b]，d [t]/[d] は正書法で区別しない。

wurd [vøt]「語」→ wurden [vǿdən]

slob [slop]「ハシビロカモ」→ slobben [slóbən]

② 摩擦音

摩擦音は f [f]/v [v]，s [s]/z [z]，ch [x]/g [γ] と書き分ける。

skroef [skru:f]「ネジ」→ skroeven [skrú:vən]

glês [glɛ:s]「グラス」→ glêzen [glé:zən]

berch [bɛrx]「山」→ bergen [bérγən]

③ もともと無声音の語

もともと無声音の語は f，s，ch のままである。これは語彙によって決まっており，特定できない。

filosoof [filəsó:f]「哲学者」→ filosofen [filəsó:fən]

kers [kɛs]「ろうそく」→ kersen [késən]

roch [rɔx]「エイ（魚）」→ rochen [rɔ́xən]/roggen [rɔ́γən]

(5) 数量の単位を表わす表現

(a) 数量の単位を表わす名詞

2 以上でも単数形を用いるものがある。

① 時間

wike [víkə]「週」　moanne [mwǽnə]「月」　jier [(j)iər]「年」

Trjie jier lyn binne wy troud.「3年前に私たちは結婚しました」(ULI'S, A 12: 8)

twa wike「2週間」(Tiersma 1985: 58f.)

ただし，複数形の例も見られる。

Ik ha de fyts noch mar *trije wiken*.「ぼくはその自転車を手に入れてからまだ3週間しかたっていません」(ULI'S, A 18: 10 変更)

Trije wiken lyn ha ik him fan de jiskepôle helle en doe fytste er noch knap.「ぼくは3週間前にそれをゴミ捨て場から拾ったんですが，そのときにはまだちゃんと動いていました」(ib. 10)

Famylje en freonen sille útnoege wurde om *ien of twa wiken* fan harren fakânsje mei te helpen.「家族や知人が休暇のうち1，2週間のあいだ手助けするために呼ばれることになっている」(ULI'S, B 14: 13)

② 重さ，量

liter [lítər]/mingel(en) [mÍŋəl(ən)]「リットル」

pûn [pu(:)n]「ポンド (0.5 kg)」　ûns [u(:)ⁿs]「オンス (0.1 kg)」

③ 距離

foet [fuət]「フィート (約30 cm)」　meter [mé:tər]「メートル」

mili- [míli..]/sinti- [sÍnti..]/kilometer [kílome:tər]「ミリ/センチ/キロ＝メートル」

④ 貨幣

gûne [gú(:)nə]「ギルダー (オ. gulden)」

⑤ 種類，個数

kop [kɔp]「..頭」　sek [sɛk]「..袋」　snies [sniəs]「20個」

dozyn [dəzín]「ダース」

twa {dozyn/*dozinen} appels「りんご2ダース」

⑥ 回数

kear [kIər]「..回」

☞ ‘基数詞＋-ris’「..回」については§48(d)参照。
☞ オランダ語やドイツ語との相違に注意。
「摂氏10度」：フ．tsien graden Celsius（複数形← graad）
オ．tien graden Celsius（複数形← graad）
ド．zehn Grad Celsius（単数形）
「北緯53度」：フ．trijeënfyftich graden noarderbreedte（複数形）
オ．drieënvijftig graden noorderbreedte（複数形）
ド．dreiundfünfzig Grad nördlicher Breite（単数形）
「6個」：フ．seis stik（単数形）
オ．zes stuks（複数形← stuk）
ド．sechs Stück（ふつう単数形）

(b) 特定の数量と不特定の数量

上記の語（とくに時間の単位を表わすもの）を単数形で用いることがあるのは，数量が特定の場合である。不特定の場合にはふつう複数形を用いる。jier「年」を例として以下に示す。

① 特定の数量

sân jier「7年間」

ただし，sân lange jierren「7年もの長いあいだ」

Hy is *seisentritich jier* (âld) wurden.「彼は36歳になった」

② 不特定の数量

inkelde jierren「数年」　　yn syn jonge jierren「彼が若かったとき」

yn 'e rin fan 'e jierren「何年もたつあいだに」

de kommende jierren「今後何年かのあいだ」(ULI'S, B 14: 13)

yn 'e jierren njoggentich「90年代に」

☞ yn 'e njoggentiger jierren「90年代に」という表現はドイツ語的な表現(germanisme) である（§31(3)③)。

It is hjir *de lêste jierren* wol feroare.「ここは最近の何年かでたしかに変わった」(ULI'S, B 8: 15)

Ik haw him *yn gjin jierren* mear sjoen.「私はもう何年も彼に会っていない」

De winsten waakse *alle jierren* op 'e nij.「利益は毎年新たに増えてい

る」(ULI'S, B 10: 17)

(c) 個々の事物を指す名詞

個々の事物を指す名詞として使われた場合には複数形を用いる。

tsien gûne「10 ギルダー」⇔ tsien gûnen「1 ギルダー硬貨 10 枚」

(d) その他

nul [nøl]「ゼロ」の後の名詞は複数形になり，oardel [ɔ́ədəl, ɔ́ərəl]「1.5」，-eninheal [ənənhIəl]「..半」の後の名詞は単数形になる。

De temperatuer is *nul* {**graad/graden*}.「気温は零度です」

Ik wachtsje hjir al *oardel* {*oere*/**oeren*}.「私はここでもう 1 時間半待っている」

It is trijeëninheale {minût/*minuten} oer tolven.「時刻は 12 時 3 分 30 秒すぎです」(Bangma 1993[2]: 111 変更)

☞ オランダ語，ドイツ語，英語との相違に注意。

「1 時間半」：フ．oardel oere（単数形）
オ．anderhalf uur（単数形）
ド．anderthalb Stunden（複数形← Stunde）
エ．one and a half hours（複数形← hour）

「3.5 分」：フ．trijeëninheale minût（単数形）
オ．drieënhalf minuut（単数形）
ド．dreieinhalb Minuten（複数形← Minute）
エ．three and a half minutes（複数形← minute）

(6) 数の一致 (de kongruïnsje)

数の表示が主語名詞句と定動詞，あるいは名詞句と名詞句のあいだで一致しない場合がある。

① 全体でひとつの概念を表わす場合

複数の名詞句が内容的に全体でひとつの概念を表わす場合には，定動詞などの数の表示で単数として扱われることがある。

Iten en drinken hâldt siel en lichem byinoar.「飲食（＝食べることと飲むこと）は心と体をたがいに健康に保つ」(Beintema 1990: 68)

Ald en nij wie it der mei iens.「老いも若きもそのことについて意見が

一致した」(Boersma/Van der Woude 1980²: 72)

Syn hâlden en dragen fernuvere ús.「彼の態度に私たちは驚いた」

② 慣用句的な表現

慣用句的な表現で数の表示が固定しているものがある。

De skoalbern binne *sa bliid as in protter*.「生徒たちは大喜びしている(＝ムクドリ［単数形］のように喜んでいる)」(ULI'S, B 5: 10)

De bern binne op it lêst *sa wurch as in maits* en wurde slûch.「子供たちはしまいには疲れきってしまい（＝ウジ［複数形］のように疲れ)，眠くなる」(ULI'S, B 5: 11)

③ 集合名詞

集合名詞は内容的に複数であっても，文法的には単数として扱われることが多い。

In groepke fan fjouwer of fiif minsken kriget in tal foarwerpen taskikke.「4人か5人のグループが特定の数のテーマをもらう」(kriget：単数形）(ULI'S, B 19: 18)

しかし，この場合，とくに'in＋単位の種類を示す集合名詞＋fan＋名詞複数形'のfanを欠く表現では，単数と複数の両方に扱われることがあり，一定しない。

Der {*kaam/kamen*} *in keppel jongfeinten* de buorren del.「若者の一団が村の通りをやってきた」(kaam：単数形，kamen：複数形)(Boersma/Van der Woude 1980²: 71)

その他の用例。

Krekt boppe it wetter *fljocht in swerm miggen*.「水面の上すれすれのところを虫の群れが飛んでいる」(fljocht：単数形）(ULI'S, B 7: 7)

In grut tal jonge skriuwers kaam mei har wurk yn "Frisia" nei foaren.「多くの若い作家たちが『フリジア』（雑誌名）に作品を掲載して世に出た」(kaam：単数形）(Stienstra 1982: 120)

Oan 'e iene kant *ferdwine in hiele rige wurden* út 'e taal, mar oan 'e oare kant komme der nije wurden by.「一方では一連の多くの語が言

語から失われるが，他方では新しい語が加わってくる」(ferdwine：複数形)

(Boersma/Van der Woude 1980²: 93 変更)

'in pear＋複数名詞' は「いくつかの...」という意味の不定代名詞としてつねに複数扱いされる (§ 42 (2)(p))。

§ 31 格 (de namfal)

(1) まとめ

古フリジア語には「主格」(de nominatyf)，「対格」(de akkusatyf)，「与格」(de datyf)，「属格」(de genityf) の 4 つの格があった。今日では属格を除いて語形変化による格の区別は失われており，固定した表現にかつての格変化のなごりが見られるにとどまる。属格には「強変化の属格」((2)(a)) と「弱変化の属格」((2)(b)) の 2 種類がある。

なお，以下では，利害・関心や所有を表わすドイツ語の「自由な与格」(ド. freier Dativ) にあたる名詞句の用法 ((5))，それに直接目的語と間接目的語の語順 ((6)) についても扱う。

(2) 属格 (de genityf)

属格には「強変化の属格 -s (-'s/-es)」と「弱変化の属格 -e」がある (Boersma/Van der Woude 1980²: 20f.)。

(a) 強変化の属格 (de sterke genityf)

強変化の属格はかつての強変化語尾に由来し，-s (-'s: e [ə] 以外の短母音で終わる語) または -es (heites ← heit「父」，memmes ← mem「母」のみ。Boersma/Van der Woude 1980²: 20) で示す。

1 音節の人名にはあまり用いない。

☞ Hoekema (1992：25) には，名詞が -s で終わる場合にはアポストロフだけを加えて -s' とつづると記されている。
notaris' hûn「公証人の犬」(ib. 25)

① 親族名称・人名・地名

親族名称・人名・地名などについて所有を表わす場合。名詞の前に置く。

heites hoed「父の帽子」　　pakes jierdei「祖父の誕生日」

Tsjitskes man「チツケの夫」 Fryslâns ferline「フリースラントの昔」

dominy's tûn「牧師の庭」(Hoekema 1992: 25 変更)

② 単独で名詞的に

「..のもの」という意味で単独で名詞的に用いる場合（Hoekema 1992: 25)。

ûs memmes「(私の）母のもの」　Jentsjes「イエンチエのもの」

③ '{親族名/人名} -en- {dy's/har(re)s}'「..とその{配偶者/身内}の(もの)」

omke-en-dy's hûs「伯父と{伯母/伯父の家族}の家」(← omke-en-dy「伯父と{伯母/伯父の家族}」) (Hoekema 1992: 12 変更)

Jan-en-hars-hûs「ヨンと{奥さん/ヨンの家族}の家」(ib. 19)

Dat hûs is *Jan-en-hars.*「あの家はヨンと{奥さん/ヨンの家族}のものです」(ib. 19)

Is dat hûs *pake-en-harres?*「あの家はおじいさんと{おばあさん/おじいさんの家族}のものですか」(ib. 20)

④ 父称

父（または母）の名前を子供の名前の一部につける場合。名前の後に置く。

Joast Hiddes Halbertsma「ヨアスト・ヒデス・ホルベツマ (1789-1869)」(Hidde の息子 Joast の意味)

Piter Jelles Troelstra「ピテル・イエレス・トゥルルストラ (1860-1930)」(Jelle の息子 Piter の意味)

☞ 次の語の -s は強変化の属格に由来するが，合成語をつくるときに用いる「接合の s」(ド．Fugen-s) として機能している。
rikeljusiten「金持ちの（ぜいたくな）食事」

rikeljusbern「良家の子女」　　keapmanseach「商人の目」

⑤ ‘前置詞＋属格’

前置詞を伴って家や家族にあたる名詞を省略する場合。

by de Dykstra’s「ディクストラ一家のもとで」

it famke by de bakkers「パン屋の娘」

Wy geane nei *pake-en-dy’s*.「私たちは祖父たちの家に行きます」(Zantema 1984: 174)

⑥ 時間を表わす名詞

時間を表わす名詞を時間の副詞として用いる場合（§ 51 (2)）。ただし，今日では -s は副詞を派生する接尾辞として機能しており，属格という意識はほとんどない。

jûns「晩に」　　simmers「夏に」　　sneins「日曜日に」

moarns betiid「朝早く」　　{de/dy} sneins「その日曜日に」

okkerwyks「何週間か前」　　ien kear wyks「週に 1 回」

⑦ 代名詞に後続する形容詞を名詞的に用いる場合

代名詞の後に置く（§ 34 (4)）。ただし，今日では属格という意識はほとんどない。

wat nijs「何か新しいもの」

wat foar moais「どんなすてきなもの」

☞ ドイツ語の etwas Neues「何か新しいもの」，オランダ語の wat nieuws「何か新しいもの」という表現も同様に属格の語尾に由来する。ただし，今日ではドイツ語で von etwas Neuem と言うことからわかるように，形容詞の名詞的用法と意識されている。

(b) 弱変化の属格（de swakke genityf）

弱変化の属格はかつての弱変化語尾に由来し，-e［ə］で示す。ただし，-e［ə］で終わる語は無語尾である。

☞ Hoekema（1992：25）には，名詞が -e で終わる場合には -e’とつづると記されている。
ús beppe’ kralen「私(たち)の祖母の真珠の首飾り」(ib. 25)

強変化の属格ほど広く用いられず，文語的で古風な表現に多い（Dykstra 1985: 91）。

① 親族名称，1音節の人名，-e で終わる2音節以上の人名，-en で終わる民族名複数形

親族名称としては heit「父」，mem「母」，pake「祖父」，beppe「祖母」，omke「伯父」，muoike「伯母」に用いる。おもに所有関係を表わし，名詞の前に置く。

heite hoed「父の帽子」　　pake jierdei「祖父の誕生日」

Janne sylboat「ヨン（Jan）のヨット」

Friezene frijheid「フリジア人の自由」（Friezen「フリジア人（複数形）」← Fries）（Hoekema 1992: 25）

親族名称については，(a)①のように強変化の属格 -s を用いて表現することもできる。

② 男性名から派生した配偶者名

男性名に -e をつけて配偶者を示す。配偶者名の前に置く。

Klaze Gryt「クラース（Klaas）の妻グリト」

Sikke Klaske「シケ（Sikke）の妻クラスケ」

☞ 次の語の -e は弱変化の属格に由来するが，合成語をつくる手段として用いられている。

heitelân「祖国」　　memmetaal「母語」

(c) 属格以外による所有の表現

親族名称や人名で属格のかわりに用いる表現がある。語形に関係なく用いることができ，属格による表現よりも一般的である。

① ‘名詞＋［所有代名詞＋名詞］’

heit syn hoed「父の帽子」　　pake syn jierdei「祖父の誕生日」

Piter Jelles syn tydskrift “For Hûs en Hiem”「ピテル・イェレスの雑誌『家庭のために』」

It keapmanseach sjocht fierder as *de klant syn noas.*「商人の目は客の鼻より遠くを見る」（Zantema 1984: 482）

弱変化の属格と組み合わせて用いることもある。

It is hjoed *ûs mem har heite jierdei.*「今日は私たちの母の父親の誕生日です」(ULI'S, A 1: 8 変更)

次の表現に注意 (§ 40 (1)(a))。

heit {sines/sinen(t)}「お父さんのもの」

☞ 以上のような表現はオランダ語の口語やドイツ語の方言にも見られる。また，この事実は「所有代名詞＋名詞」や所有代名詞独立形のような名詞句よりもさらに大きな文成分の単位があることを示している。

② '名詞＋［前置詞 fan＋名詞］'

所有の意味以外でもさまざまな場合に広く用いる。

de hoed fan heit「父の帽子」　de jierdei fan pake「祖父の誕生日」

it foarwurd fan de bondel poëzy fan de jonge Fryske skriuwers "It Jonge Fryslân"「若いフリジア人作家の詩集『若いフリースラント』の序文」(Piebenga 1957: 168)

(d) 属格と冠詞

名詞の前に置かれた属格は冠詞の現われる位置を占めるので，この場合には冠詞がつかない。

{*in/*it/ϕ} pakes hûs「祖父の家」(強変化の属格)

{*in/*it/ϕ} pake hûs「祖父の家」(弱変化の属格)

次の表現でも冠詞はつかない。

{*in/*it/ϕ} pake syn hûs「祖父の家」

(3) 地名と数詞の語尾 '-er'

名詞を修飾する強変化の属格 (-s/-'s/-es) 以外に，地名と数詞は語尾 -er (-ter, -ster, -mer) を伴って無変化の形容詞として用いることができる。これは格変化ではなく，形容詞化であるから，属格とちがって冠詞がつく。

① 地名：形容詞

de Hylper meubels「ヒルペン (オ. Hindeloopen　ヒンデローペン) の家具」(← Hylpen)

De Ljouwerter Krante「リャウエト新聞（フリースラントの代表的地方紙，オ．De Leeuwarder Courant　レーワルデン新聞」(←Ljouwert)

② 地名：名詞「..（出身）の人」(複数形 -s)

in Frjentsjerter「フリエンチェル（オ．Franeker　フラーネケル）の人」(← Frjentsjer)

in Grouster「グラウ（オ．Grouw　フラウ）の人」(← Grou)

in Drachster「ドラハテン（オ．Drachten）の人」(← Drachten)

in Hegemer「ヘーヘ（オ．Heeg）の人」(← Heech)

③ 数詞：名詞「..十代（..十歳くらい）の人」

in tritiger「30 代の人，30 歳くらいの人」(← tritich)

☞ 次の表現も見られるが，ドイツ語的な表現（germanisme）である（§ 30 (5)(6)②)。

yn 'e tachtiger jierren「80 年代に」(← tachtich)

西フリジア語的には次のように表現する。

yn 'e jierren tachtich「80 年代に」

(4) 与格のなごり

前置詞 te を伴った表現に与格のなごり（-e）が見られる（§ 26 (3))。

te'n goede fan「..のために」　　te neate meitsje「水泡に帰する」

te {goed(e)/guodde} {hâlde/hawwe}「..を見込む」

telâne「適切に，しかるべく」(← te lâne)

terjocht(e)「正しく，正しい位置に」(← te rjocht(e))

(5) 「利害」，「所有」を表わす名詞句

動詞や形容詞の目的語ではなくても，主語以外に文中で用いられて，利害や身体部位，衣類など所有者と関係の深い物事の所有の意味を表わす名詞句がある。ドイツ語で「自由な与格」（ド．freier Dativ）として表現されるものにあたる。

① 利害

Dat wie *my* in feest.「それは私にとってはお祭りでした」(ULI'S, A

14: 15)

"Sil ik om kertier oer trijen komme?" "Nee, eins is *my* dat te let."「3時15分すぎに来ましょうか」「いや，じつはそれでは私には遅すぎるんです」(Bangma 1993²: 22 変更)

Winters is 't *my* te kâld.「冬は私には寒すぎる」(ULI'S, B 11: 9)

② 所有（身体部位，衣類など）

Hylke woeks *heit* boppe *de holle.*「ヒルケは父親の背（＝頭）よりも大きくなった」(ULI'S, C 20: 4)

It toanielspyljen sit *de Friezen* troch alle tiden hinne yn *it bloed.*「演劇はどの時代にもずっとフリジア人の血に宿っている」(ULI'S, C 20: 9)

Sy fielde *him de pols.*「彼女は彼の脈をはかった」(ULI'S, A 6: 8 変更)

Wat hinget *my* boppe *de holle?*「何が私の頭上に掛かっているのだろう」(Bangma 1993²: 76 変更)

De kjeld gyng *him* troch *de lea,* mar *de holle* wie *him* gleon.「寒気が彼の体に走ったが，彼の頭はほてっていた」(ULI'S, A 6: 8)

Mannich bern geane *de eagen* pas iepen as de âlden se ticht dogge.「多くの子供は親が目を閉じるときになってやっと目を開く（＝…多くの子供たちの目が開く）（＝孝行したいときに親はなし。ことわざ)」(Beintema 1990: 16)

(6) 目的語の語順

(a) まとめ

定動詞が要求する目的語名詞句が一つの場合には，その目的語名詞句は直接目的語と解釈される。

定動詞が要求する目的語名詞句が二つの場合には，先行する名詞句が間接目的語と解釈され，「間接目的語＋直接目的語」という語順になるのが原則である。定動詞，間接目的語，直接目的語はたがいに隣接している必要（隣接条件）はなく，副詞など他の要素が介在してもいい。

間接目的語は直接目的語が後続することを前提とするので，「直接目的語＋間接目的語」という名詞句の語順はかなり不自然である。ただし，直接目的語か間接目的語かの判断は，たとえば「人に（＝間接目的語）物事を（＝直接目的語）与える」のように意味によってもある程度可能なので，まったく許されないというわけではないが，それでもかなり無理な表現になることが多い。そのような場合には，間接目的語の部分を oan「..に」などの前置詞を伴う前置詞句にすれば，名詞句の数が一つになり，その名詞句は一義的に直接目的語と解釈されるので問題がなくなる。間接目的語に相当する前置詞句と直接目的語名詞句の語順は自由である。

☞「間接目的語＋直接目的語」という語順は英語と同じだが，西フリジア語には隣接条件がない点が異なる。「直接目的語＋間接目的語」という名詞句の語順が不自然であるのは，与格と対格を形態的に区別するドイツ語とは異なるが，隣接条件がないことは共通している。以上の2つの点で西フリジア語はオランダ語にもっともよく似ている。

目的語が代名詞の場合には，その代名詞を主文の第2位を占める定動詞や，補文導入要素（従属接続詞，関係詞，間接疑問文の疑問詞）の直後に連接形（it klitik）のように付随させようとする傾向がある。したがって，代名詞が目的語名詞句を飛び越えてその位置に置かれる場合には，「直接目的語（代名詞）＋間接目的語（名詞句）」という語順も見られることになる。

両方の目的語がともに代名詞の場合には，直接目的語が it「それを」のようにアクセントをもつことができない代名詞ならば，it を間接目的語代名詞を飛び越えて，定動詞の直後に連接形のように付随させることが好まれるので，「直接目的語（it）＋間接目的語（代名詞）」の語順がもっともふつうになる。この場合，「間接目的語（代名詞）＋直接目的語（it）」という語順も可能だが，それほど一般的ではない。

(b) 用例と解説

例として，動詞 jaan「与える」を用いた文で以下にその典型的なパターンを示す。ただし，もっとも自然な語順の判定には，このほかに文脈や話者の発話意図を考慮しなければならない。

① 直接目的語と間接目的語がともに名詞句の場合

「間接目的語＋直接目的語」という語順になる。

Ik joech juster *myn freon dat boek.*「私は昨日私の友人にその本をあげた」(以下，訳文省略)

上記の文がもっともふつうだが，以下の文も可能である。一般に，文末に近い文成分は情報量が多く，新しく伝えるべきものである場合が多い。

Ik joech *myn freon*$_i$ juster ϕ_i *dat boek.*

Ik joech *myn freon*$_i$ *dat boek*$_j$ juster ϕ_i ϕ_j.

「直接目的語＋間接目的語」という語順はかなり不自然である。

?Ik joech juster *dat boek*$_j$ *myn freon* ϕ_j

?Ik joech *dat boek*$_j$ juster *myn freon* ϕ_j.

?Ik joech *dat boek*$_j$ *myn freon*$_i$ juster ϕ_i ϕ_j.

ただし，間接目的語の部分が前置詞句ならば，上記の語順は自由である。

Ik joech juster *oan myn freon dat boek.*

Ik joech *oan myn freon* juster *dat boek.*

Ik joech *oan myn freon dat boek* juster.

Ik joech juster *dat boek oan myn freon.*

Ik joech *dat boek* juster *oan myn freon.*

Ik joech *dat boek oan myn freon* juster.

どちらかの目的語が前域（主文の定動詞の直前）に置かれる場合，直接目的語が前域に置かれたときには，後続する名詞句を欠く間接目的語は不自然である。

?*Dat boek*$_j$ joech ik juster *myn freon* ϕ_j.

Myn freon$_i$ joech ik juster ϕ_i *dat boek.*

このような場合には間接目的語の部分が前置詞句で現われていていることが望ましい。

Dat boek joech ik juster *oan myn freon.*

Oan myn freon joech ik juster *dat boek.*

② 間接目的語が人称代名詞の場合

「間接目的語＋直接目的語」という語順になり，間接目的語代名詞は定動詞の直後に添えられる。

Ik joech *him*$_i$ juster ϕ_i *dat boek.*「私は彼に昨日その本をあげた」（以下，訳文省略）

Ik joech *him*$_i$ *dat boek*$_j$ juster ϕ_i ϕ_j.

ただし，間接目的語代名詞がアクセントを伴って独立性が高くなる場合には，定動詞の直後に添えなくてもかまわない。

Ik joech juster *HIM dat boek.*（HIM：大文字表記はアクセントを伴うことを示す。以下同様）

「直接目的語＋間接目的語」という語順は間接目的語にアクセントを置いてもかなり不自然である。

Ik joech juster *dat boek*$_j$ {*him/?HIM} ϕ_j.

Ik joech *dat boek*$_j$ juster {*him/?HIM} ϕ_j.

Ik joech *dat boek*$_j$ {*him/?HIM}$_i$juster ϕ_i ϕ_j.

このような場合には，間接目的語の部分が前置詞句として現われていることが望ましく，そうすれば前置詞句と名詞句の語順は自由である。

Ik joech juster *dat boek oan him.*

Ik joech *dat boek* juster *oan him.*

Ik joech *dat boek oan him* juster.

Ik joech juster *oan him dat boek.*

Ik joech *oan him* juster *dat boek.*

Ik joech *oan him dat boek* juster.

③ 直接目的語が人称代名詞の場合

直接目的語が it のようにアクセントをもつことができない場合には，it が定動詞の直後に添えられる。そうでない文は不自然である。

*Ik joech juster *myn freon it.*「私は昨日私の友人にそれをあげた」（以下，訳文省略）

*Ik joech *myn freon*$_i$ juster ϕ_i *it*.

*Ik joech *myn freon*$_i$ *it*$_j$ juster ϕ_i ϕ_j.

*Ik joech juster *it*$_j$ *myn freon* ϕ_j.

☞ it が文末に置かれていない後半の 2 つの文は it が文末に置かれている前半の 2 つの文よりも認容性が高いという判断もある。

直接目的語の it が定動詞の直後に連接形のように添えられると，「間接目的語＋直接目的語」という語順にはならないが，直接目的語がアクセントをもたない代名詞なので，この語順が許される。

Ik joech *it*$_j$ juster *myn freon* ϕ_j.

Ik joech *it*$_j$ *myn freon*$_i$ juster ϕ_i ϕ_j.

もちろん，間接目的語の部分が前置詞句ならば問題がない。

Ik joech *it* juster *oan myn freon*.

Ik joech *it oan myn freon* juster.

ただし，直接目的語の it が定動詞の直後に添えられるという条件が満たされなければ，間接目的語の部分が前置詞句でも自然な文にはならない。

*Ik joech juster *oan myn freon it*.

*Ik joech *oan myn freon* juster *it*.

*Ik joech *oan myn freon it* juster.

*Ik joech juster *it oan myn freon*.

☞ 最後の文は他の 3 つの文に比べて認容性が高いという判断もある。

直接目的語の代名詞がアクセントを伴って独立性が高くなる場合には，両方の目的語が名詞句である①②と同様に，「間接目的語＋直接目的語」という語順もある程度許される。it はアクセントをもつことがないので，指示代名詞 dat で代用する。間接目的語にあたるものが前置詞句であれば問題がないのは，①②と同様である。

Ik joech {*myn freon*/*oan myn freon*} *DAT* juster.

Ik joech juster *DAT* {?*myn freon*/*oan myn freon*}.

Ik joech {?*myn freon*/*oan myn freon*} juster *DAT*.

Ik joech juster {?*myn freon/oan myn freon*} *DAT*.

☞ 名詞句 myn freon「私の友人に」を用いた場合，DAT「それを」が文末に置かれた後半の 2 つの文はかなり容認性が低い。

dat がとくに強いアクセントをもたない場合には，it を用いた場合と同様の語順も許される。

Ik joech *dat* juster {*myn freon/oan myn freon*}.

Ik joech *dat* {*myn freon/oan myn freon*} juster.

④ 直接目的語と間接目的語がともに代名詞の場合

直接目的語代名詞がアクセントをもち得ない it 以外の場合には，①②と同様に「間接目的語＋直接目的語」という語順がふつうである。

Ik joech him_i dat_j [juster ϕ_i ϕ_j].

?Ik joech dat_j him_i [juster ϕ_i ϕ_j].

しかし，直接目的語がアクセントをもち得ない it の場合には，間接目的語代名詞を飛び越えて it を定動詞の直後に添えることが好まれる。したがって，例外的に「直接目的語（it)＋間接目的語」のほうが「間接目的語＋直接目的語（it)」よりもふつうになる。

Ik joech it_j him_i juster ϕ_i ϕ_j.「私は昨日彼にそれをあげた」(以下，訳文省略)

次の「間接目的語＋直接目的語（it)」という語順の文も可能だが，上の文ほど一般的ではない。

Ik joech him_i it_j juster ϕ_i ϕ_j.

それ以外の文は不自然である。

*Ik joech juster *him it*.

*Ik joech juster it_j *him* ϕ_j.

*Ik joech him_i juster ϕ_i *it*.

*Ik joech it_j juster *him* ϕ_j.

アクセントを置いて文成分としての独立性を高めれば，ある程度，定動詞の直後に置く必要はなくなる。

Ik joech him_i [juster ϕ_i *DAT*].

?Ik joech dat_j [juster *HIM* ϕ_j].

?Ik joech [juster *HIM DAT*].

?Ik joech [juster *DAT HIM*].

§32 縮小形 (it ferlytsingswurd, it diminutyf)

(1) まとめ

個々の物事を指す名詞の多くは，語末音の種類に応じて3種類の接尾辞のどれかを伴って縮小形をつくることができる。縮小形は名詞自体の意味は変えずに小さいものを示すのが基本だが，愛着などの感情を伴うことが多く，使用頻度も高い ((2))。縮小形は複数形と同様に短母音化（§9）や「割れ」(§10) を伴うことがある。短母音化は複数形の場合よりも起こりやすい ((3))。

縮小形の文法性は中性である。ただし，男性名の縮小形から女性名を派生することがあり，この場合には中性の扱いを受けない ((4))。

(2) 縮小形の種類

(a) 接尾辞 -ke，-tsje，-je

縮小形の接尾辞には -ke，-tsje，-je の3種類があり，語末音によって決まっている。くだり二重母音を除いて，母音 -e [ə] で終わる語は -e [ə] を落としてから接尾辞を決める。

① 接尾辞 -ke [kə]

あいまい母音 -e [ə] を除く母音（ただし，くだり二重母音は別）および両唇音 p [p]，b [b]，m [m]，唇歯音 f [f]，v [v]，歯茎音のなかで摩擦音 s [s]，ふるえ音 r [r] の後。

bui [bœy]「にわか雨」→ buike

bedriuw [bədrjýu, bədrjó:u]「企業，経営」→ bedriuwke

strie [striə]「藁」→ strieke　　kop「カップ」→ kopke

tobbe [tóbə]「桶」→ tobke [tópkə]　　blom「花」→ blomke

grêf「墓」→ grêfke

stove [stɔ́:və]「足温器，あんか」→ stoofke [stɔ́:fkə]

pleats [plIəts]「農場」→ pleatske

ker [kɛs]「ろうそく」→ kerske　　stjer「星」→ stjerke

② 接尾辞 -tsje [tʃə]

歯茎音のなかで閉鎖音 t [t] (t-tsje → tsje)，d [d] (d-tsje → dsje)，側音 l [l]，鼻音 n [n] の後。

presint「プレゼント」→ presintsje

kleed [kle:t]「敷物」→ kleedsje [klé:tʃə]

leppel「スプーン」→ leppeltsje　　trein「列車」→ treintsje

-st の後については(b)①参照。

③ 接尾辞 -je [jə]

軟口蓋音 k [k]，ch [x]，g [γ] (ge-je → chje) の後。

blik「缶」→ blikje　　each「目」→ eachje

bigge [bÍγə]「子豚」→ bichje [bÍxjə]

-ng(e) [ŋ(ə)] で終わる語は -nk-je [ŋkjə] となる。つまり，正書法上は g(e) が k に変わって接尾辞 -je が選ばれ，発音上は [ŋ] と [jə] のあいだに [k] が挿入される (§ 14 (1)(b), Visser 1989: 193, Hoekstra 1986: 147)。

jonge [jóŋə]「男の子」→ jonkje [jóŋkjə]

wang [vaŋ]「頬」→ wankje [váŋkjə]

☞ 接尾辞 -je を接尾辞 -tsje ([tjə] → [tsjə] → [tʃə]) の変種と見れば，接尾辞の種類は 2 種類になる ((b)①, § 14 (3))。

(b) 例外

① -st で終わる語には t の脱落 (§ 17 (2)(b)) の順序によって揺れがあり，-stke [skə]/-stje [ʃə] の両方の語形が併存する場合が多い。

-stke [skə] による語形は，[t] が脱落した後で(a)①に従って [s] に続く接尾辞 -ke が選ばれることによる。

[st- 縮小] → [s- 縮小] → [skə]

一方，-stje [ʃə] による語形は，[t] が脱落する以前に(a)②に従って

-tsje が選ばれ，その後で［t］が脱落することによる（Visser 1993: 125f.）。ただし，この場合，つづりでは(a)③の -je が選ばれているように見える。

［st-tjə］→［st-tsjə］→［stsje］→［ssje］→［sjə］→［ʃə］

nêst［nɛ:st］「巣」→ nestke［nɛ́skə］/nestje［nɛ́ʃə］

fûst［fust］「握りこぶし」→ fûstke［fúskə］/fûstje［fúʃə］

bist［bIst］「動物」→ bistke［bÍskə］/bistje［bÍʃə］

② 最近の外来語などでは，オランダ語の影響であいまい母音 -e［ə］以外の母音の直後に -ke だけでなく，-tsje［tʃə］も見られる。

buro「事務所」→ buroke/burootsje　foto「写真」→ fotoke/fotootsje

in {twake/twatsje}「タゲリ（鳥名）の巣の中にある 2 個の卵」(Zantema 1984: 1099)

☞ 最近ではそのほかの語についてもオランダ語の影響で -tsje が見られることがある（Breuker 1982, Breuker et al. 1992[2]: 15）。
finger「指」→ fingerke/(fingertsje)（オ．vingertje）

(3) 短母音化（§9）と「割れ」（§10）

複数形の場合と同様に，縮小形では短母音化と「割れ」が起こることがある。これは語彙によって決まっており，特定できない。

(a) 短母音化

短母音化は縮小形のほうが複数形よりも起こりやすい。たとえば次の語は複数形では短母音化を起こさない。

priis［pri:s］「値段」→縮小形　pryske［prískə］/複数形　prizen［prí:zən］（以下同様の順）

glês［glɛ:s］「グラス，コップ」→ gleske［glɛ́skə］/glêzen［glɛ́:zən］

lape［lá:pə］「布切れ」→ lapke［lápkə］/lapen［lá:pən］

brân［brɔ:n］「火，火災」→ brantsje［brɔ́ntʃə］/brânen［brɔ́:nən］

hôf［hɔ:f］「果樹園，屋敷」→ hofke［hɔ́fkə］/hôven［hɔ́:vən］

koeke［kú:kə］「クッキー」→ koekje［kúkjə］/koeken［kú:kən］

skûf [sky:f]「引き戸」→ skûfke [skýˑ(:)fkə]/skuven [skýˑvən]

(b) 「割れ」

短母音化とちがって複数形との頻度の差はとくにない。たとえば次の語は複数形でも「割れ」を起こす。

priem [priəm]「編み棒」→ 縮小形 priemke [prjÍmkə]/複数形 priemmen [prjÍmən]（以下同様の順）

feart [fIət]「運河，航行」→ feartsje [fjétʃə]/fearten [fjɛ́tən]

spoen [spuən]「（材木などの）切れ端」→ spuontsje [spwɔ́ntʃə]/spuonnen [spwɔ́nən]

次の例も参照。

fjoer [fjuər]「火」→ fjurke [fjǿrkə]/fjurren [fjǿrən]

(4) 縮小形による女性名

男性名の縮小形から女性名を派生することがある。これは縮小形であるが，中性名詞の扱いは受けない。

Jan「ヨン（男性名）」→ Jantsje「ヨンチェ（女性名）」（以下同様の順）

Piter「ピテル」→ Piterke「ピテルケ」

Sytse「シツェ」→ Sytske「シツケ」

Klaas「クラース」→ Klaske「クラスケ」

III 形容詞（it eigenskipswurd）

§33 品詞の区別と用法の区別

i) it *moaie* famke「美しい少女」

ii) Sytske is *moai*.「シツケは美しい」

Sytske wurdt *moai*.「シツケは美しくなる」

Sytske bliuwt *moai*.「シツケは美しいままでいる」

Sytske liket *moai*.「シツケは美しいように思える」

iii）Sytske sjongt *moai*.「シツケは美しく歌う」

上記の用例は形容詞　moai「美しい」の3種類の用法を示している。i）を「限定用法」(it attributive gebrûk)，ii）を「叙述用法」(it predikative gebrûk)，iii）を「副詞用法」(it adverbiale gebrûk）と呼ぶ。ii）とiii）をまとめて「独立用法」(it selsstannige gebrûk）と呼ぶ。

西フリジア語の moai はドイツ語やオランダ語と同様に，叙述用法と副詞用法で語形としての区別がない。形容詞から副詞を派生して語形を区別する英語とは異なっている（例：beautiful → beautifully)。

上記3例の moai は品詞（de wurdsoart）としてはすべて形容詞であり，異なるのは用法（it gebrûk）である。英語では副詞用法を限定用法と叙述用法から品詞としても語形的に区別している。

これにたいして，次の hjir「ここ」は品詞としては副詞（it bywurd）である。

iv）Sytske is *hjir*.「シツケはここにいる」

v）Sytske sjongt *hjir* moai.「シツケはここで美しく歌っている」

vi）Kom *hjir* ris.「ちょっとここにおいでよ」

副詞は語形変化しない。たとえば hjir を名詞にたいして限定的に用いる場合には，無変化のまま名詞の後に置く。

it klimaat *hjir*「ここの気候」

西フリジア語の形容詞はドイツ語やオランダ語と同様に，限定用法では名詞に前置され，語尾を伴うことがあるが，独立用法（叙述用法と副詞用法）では無変化である。このように，西フリジア語の形容詞は語形変化にかんして限定用法と独立用法の区別が重要である。形容詞の多くは限定用法と独立用法の両方で用いられるが，どちらかの用法でしか使えないものもある。限定用法は独立用法よりも使用可能な形容詞の数が多い。

§34　形容詞の語形変化と用法

(1)　まとめ

形容詞には限定用法で -e，-en，-s の語尾がある。独立用法ではそのよう

な語尾はつかない。語尾 -e，-en を伴った形容詞は名詞的に用いることができる（(3)(a)，(4)）。

形容詞は名詞にたいして限定的に用いる場合には，名詞の前に置き，語尾 -e，-en を伴うことがある。もっとも一般的な語尾は -e であり，後続する名詞の性・数や限定詞の種類によって現われかたが決まっている（(2)）。限定用法で用いられる語尾 -en はとくに「強調の語尾」と呼ばれ，形容詞の意味的な内容を強める（「きわめて..な」）はたらきをする（(3)(b)）。

語尾 -s を伴って不定代名詞とともに用いる場合には，形容詞は不定代名詞の後に置く（(5)）。また，learaar Frysk「フリジア語教師」のような語順にも注意が必要である（(6)）。

名詞句を伴って形容詞句を形成する場合には，「名詞句＋形容詞」の語順がふつうである。前置詞句を伴って形容詞句を形成する場合には，「前置詞句＋形容詞」のほかに「形容詞＋前置詞句」の語順が可能である（(7)）。

文章語では，限定用法で限定詞と名詞のあいだに長い形容詞句（分詞句を含む）をはさみこんだ，いわゆる「冠飾句」が見られる（(8)）。

(2) 語尾 -e/〈無語尾〉

(a) 無語尾

〈無語尾〉は中性名詞単数形について，次の場合だけに限られる。その他の場合はすべて語尾 -e を伴う。

① 限定詞（冠詞・代名詞・属格など）がない場合
　âld bier「古いビール」

② 不定冠詞 in，否定冠詞 gjin の後
　in âld hûs「古い家」　　gjin âld hûs「古い家（..）でない」

③ 数詞 ien の後
　ien âld hûs「一軒の古い家」

④ 所有代名詞（myn「私の」など）の後
　ús âld hûs「私たちの古い家」

⑤ 属格名詞の後

pakes âld hûs「祖父の古い家」

☞ 標準オランダ語では形容詞は中性名詞の場合でも所有代名詞と属格の後で語尾 -e を伴う。

オ．{ons/grootvaders} oude huis「{私たちの/祖父の} 古い家」(← oud「古い」)

この場合，語尾 -e を伴うのはかつての弱変化，伴わないのはかつての強変化に由来する。形容詞の弱変化はゲルマン語特有の発達であり，元来，「個別化・限定」を意味した。限定用法の形容詞が定冠詞や指示詞の後で弱変化し，不定冠詞の後で強変化するのはそのためである。ただし，所有代名詞と属格の後で弱変化するか強変化するかは言語によって差があり，それが上記の違いに現われているといえる。

⑥ 不定代名詞：elk/elts/ider「どの..も」，mannich「多くの」，hoe'n (＋可算名詞)/hok (＋不可算名詞)/hokker/hokfoar (in)/watfoar (in)「どんな」，sa'n (＋可算名詞)/sok (＋不可算名詞)「そんな」の後

elk âld hûs「どの古い家も」　mannich âld hûs「多くの家」

{hoe'n/hok in/hokker/hokfoar (in)/watfoar (in)} âld hûs「どんな古い家」

sa'n âld hûs「そんなに古い家」

☞ sa'n âld hûs「そんなに古い家」の sa は âld を修飾している。*in sa âld hûs「同上」は不可 ((3)(b))。

オランダ語も同様。

{zo een oud huis/*een zo oud huis}「そんない古い家」

(b) まとめ

まとめると次のようになる。語末音の無声化と正書法に注意。

両性	中性
〈単数〉	〈単数〉
goede wyn「良いワイン」(← goed)	*goed* bier「良いビール」
in *hege* toer「高い塔」(← heech)	in *heech* gebou「高い建物」
elk *hege* toer「どの高い塔も」	elk *heech* gebou「どの高い建物も」

myn *leave* soan「私の愛する息子」(← leaf)

Jelles *leave* soan「イエレの愛する息子」

{de/dizze/dy} *grize* rok「{その/この/あの} 灰色のスカート」(← griis)

〈複数〉

hege tuorren

myn *leave* soannen

Pyts *leave* soannen

{de/dizze/dy} *grize* rokken

myn *leaf* famke「私の愛する少女」

Jelles *leaf* famke「イエレの愛する少女」

{it/dit/dat} *grize* boek「{その/この/あの} 灰色の本」

〈複数〉

hege gebouwen

myn *leave* famkes

Pyts *leave* famkes

{de/dizze/dy} *grize* boeken

(c) 例外 I：〈無語尾〉

次の場合には形容詞はつねに無変化である。

① -er をつけて形容詞化した地名と数詞（§ 31 (3)），rjochter「右の」，lofter「左の」

it Makkumer ierdewurk「マクムの陶芸」(← Makkum「マクム」)

twa {rjochter hannen/rjochterhannen} hawwe「とても器用である（＝二つの右手をもっている）」

② 母音で終わる外来語の形容詞および語末音があいまい母音［ə］の形容詞

in prima oplossing「見事な解決」(← prima「見事な」)

in berne Fries「生粋のフリジア人」(← berne「生粋の，生まれた」)

本来のフリジア語の形容詞は語末音が母音でも語尾 -e を伴う。

it reeë antwurd「用意した返事」(← ree「用意のできた」)

③ 不定冠詞 in を前に置き，おもに男性の人について性格や職業などの質を強調する場合

in nuver man「変わった男」

in grut skriuwer「偉大な作家」⇔ in grutte skriuwer「背が高い作家」

☞ オランダ語も同様。

オ．een groot schrijver「偉大な作家」⇔ een grote schrijver「背が高い作家」

Foar ús wie de smid in *wichtich* man.「私たちにとってその鍛冶屋さんは大切な人でした」(ULI'S, B 12: 7)

In *lyk* man is in *ryk* man.「借金のない者は裕福な者だ」(Bosma-Banning 1981[2]: 29)

④ 話者や相手がよく知っている特定の人や動物・物事などを親近感を交えて話題にする場合

形容詞の種類は âld「老いた」，jong「若い」，grut「大きい」，lyts「小さい」など少数に限られる。名詞とともに1語の合成語のように意識され，アクセントは後続する名詞に置かれる。

dat grut hynder「あの大馬」　　dy jong feint「あの若造」

Pyt, de âld man「あのピトのじいさん」

dat lyts hûs「あの小家（農家の離れ）」

myn âld skammels「私のガタがきた足」(Fokkema 1967[2]: 45)

1語の名詞として固定した例もある（§21(5)①）。

jongfeint [joŋfáint, ..fɛint]「若造」

âldman [ɔ:tmɔ́n]「じいさん」　　lytshûs [litshú:s]「小家」

⑤ 職務，公的な名称，専門用語など，名詞とともに1語の合成語のように意識されているもの。とくに中性名詞単数形に多い。

it heger ûnderwiis「高等教育」　　it iepenbier ferfier「公共輸送」

it finansjeel ferslach「会計報告」　it deistich wurk「日々の仕事」

ただし，複数形では語尾 -e がつく。

it rinnend nijsblêd「かわら版（単数形）」⇔ de rinnende nijsblêden「同左（複数形）」(ULI'S, A15: 8)

it {betreklik/betreklike} foarnamwurd「関係代名詞（単数形）」⇔ de betreklike foarnamwurden「同左（複数形）」

両性名詞でも単数形で無冠詞の場合に無語尾のことがある。しかし，冠

詞を伴ったり，複数形になったりすると語尾 -e がつく。

{wittenskiplik/saaklik} direkteur「{研究/事務} 主任（単数形・無冠詞）」

⇔ de {wittenskiplike/saaklike} direkteur「同左（単数形・定冠詞）」

(de) {wittenskiplike/saaklike} direkteuren「同左（複数形）」

次の相異に注意。

it Frysk Ynstitût oan de Ryksuniversiteit te Grins「フローニンゲン（オ．Groningen）大学フリジア語学科」

⇔ de Fryske Akademy te Ljouwert「リャウエト（オ．Leeuwarden レーワルデン）のフリスケ・アカデミー」

☞ オランダ語でも同様である。

⑥ 比較級限定用法で名詞句に限定詞（冠詞，代名詞，属格）がつかない場合（§ 35 (2)(b)①）。

It ûntstean fan de stêden is fan *letter* tiid as dy fan de doarpen.「都市の成立は村の成立よりも後の時代のことである」(ULI'S, C 11: 2)

⑦ in oar「ほかの {人/もの}」

Wat sil *in oar* derfan sizze?「ほかの人はそのことについて何と言うだろう」(Zantema 1984: 675)

ただし，名詞が後続する場合には語尾 -e をつける。

in oare man「ほかの男の人」　　in oare kleur「ほかの色」

定冠詞がつくときには語尾 -e をつけてもつけなくてもいい。

fan it ien(e) yn it oar(e)「あることからほかのことへ」(Zantema 1984: 675)

(d) 例外II：語尾 -e

① 限定用法の最上級

最上級は限定用法で中性単数でもつねに語尾 -e を伴う（§ 35 (2)(c)②）。

myn {leafste/*leafst} ferhaal「私のいちばん好きな話」

② 限定用法の序数詞

序数詞は限定用法で中性単数でもつねに語尾 -e を伴う。

in {tredde/*tred} bern「3番目の子供」

叙述用法では次のようになる。

Sjouke is {*tred/de tredde*}.「シャウケは3番だ」

(e) 例外Ⅲ：〈無語尾〉/語尾 -e

① -en で終わる材質を示す形容詞および過去分詞

-en で終わる材質を示す形容詞および過去分詞では，語尾 -e の有無は任意である（Hoekema 1992: 3)。

in {houten/houtene} leppel「木製のスプーン（単数形)」

(de) {houten/houtene} leppels「木製のスプーン（複数形)」

in {brutsen/brutsene} panne「こわれたフライパン（単数形)」

(de) {brutsen/brutsene} pannen「こわれたフランパン（複数形)」

-en で終わっていても材質を示さない場合には語尾 -e を伴う。

in {*libben/libbene} taal「現在使われている言語（単数形)

(de) {*libben/libbene} talen「現在使われている言語（複数形)」

☞ linnen「亜麻の」には linnens「同左」という異形があり，やはり無変化である。
izeren「鉄の」は語尾 -e を伴うと iz(e)rene のように語中母音 -e が消失することがある（Hoekema 1992: 1)。

② 語尾 -e の有無と意味・用法の差

語尾 -e の有無によって意味・用法に差が見られる語がある。

gâns「多くの（無語尾)」⇔「全体の，長い，大きい（語尾 -e)」

yn gâns gefallen「多くの場合に」　　gâns snie「多くの雪」

⇔ de gânse dei「1日中」　gânse ferhalen「長大な物語（複数形)」

(3) 語尾 -en

語尾 -en には次の2種類があり，それぞれ用法が異なる。このほかに形容詞の名詞化 (4) でも -en の語尾が出る。ただし，-en で終わる材質を表わす

形容詞には語尾 -en はつかない（Hoekema 1992: 4)。それ以外の -en で終わる形容詞（過去分詞を含む）にはつく。

(a) '{in/gjin/sa'n/ien}＋形容詞 -en'

不定冠詞 in，否定冠詞 gjin，不定代名詞 sa'n，数詞 ien の後では，形容詞が語尾 -en を伴って名詞句のかわりになる。かわりになる名詞句は両性でも中性でもいい。語尾 -en はなくてはならない。

Myn fyts is stikken gien. Ik wol *in nijen* ha.「私の自転車はこわれた。新しいのがほしい」(← nij「新しい」)

Dit is it iennichste wurdboek dat ik ha. Ik ha *gjin betteren*.「これが私がもっている唯一の辞書です。これより良いのはもっていません」(← goed「良い」)

Sa'n djoeren ha ik net.「私はそんなに高価なのはもっていない」(← djoer「高価な」)

Ik ha hjir *ien lytsen*.「私はここに小さいのをもっている」(← lyts「小さい」)

Dy't by elk *in bêsten* is, is *in minnen* foar himsels.「だれにとっても良い人は自分にとっては悪い人だ（ことわざ)」(Beintema 1990: 17)

この場合，形容詞の後に ien を伴うことがあり，'形容詞 -en＋ien' を一語でつづることもある。ただし，数詞 ien の後ではあまり好まれない（Van der Woude 1981: 177)。

Ik wol {*in nijen ien*/*in nijenien*} ha.「私は新しいのがほしい」

Ik ha {*gjin betteren ien*/*gjin betterenien*}.「私はもっと良いものをもっていない」

{*Sa'n grutten ien*/*Sa'n gruttenien*} ha ik net.「そんな大きなものは私はもっていない」

in，gjin，sa'n，ien 以外の後では語尾 -en はつかず，語尾 -e を用いて名詞句のかわりにする（(4)参照)。

"Ik ha hjir twa blommen, {*in readen*/*in readen ien*/*in readenien*} en {*in gielen*/*in gielen ien*/*in gielenien*}. Hokker wolsto ha?" "Jou my

{*dy reade/*dy readen*} mar.”「私はここに花を2本もっている。赤いのと黄色いのだ。どれがほしいかね」「赤いのをちょうだい」(← read「赤い」, giel「黄色い」) (Van der Woude 1981: 176 変更)

☞ 英語の a new one, a better one に似ているが，西フリジア語では in, gjin, sa'n, ien 以外の限定詞とは使えない点が異なる。

不定代名詞に直接，語尾 -en(t) がついた次のような表現もある。

sa'nen(t)/sa'nen-ien/「そのような {人/物事}」

gjinnen(t)/gjinien「何（だれ）も..ない」(*gjinnen(-)ien は不可)

hoe'nen(t)/hoe'n(en)-ien「どんな {人/物事}」

Ik wol {*sa'nen(t)/sa'nen-ien*} ha.「私はそんなものがほしい」

Is der no {*gjinnen(t)/*gjinnen(-)ien*} dy't dat dwaan kin?「それができる人はだれもいないのだろうか」

(b) 強調の語尾 -en

不定冠詞 in，否定冠詞 gjin，不定代名詞 sa'n の後では，形容詞の意味的な内容を強調する場合に語尾 -e のかわりに語尾 -en を用いることがある。形容詞には名詞が後続する。

in dregen baas「とても厳しい上司」(← dreech「厳しい」)

sa'n swieten dream「そんな甘い夢」(← swiet「甘い」)

Ik haw sa'n *ôfgrysliken* pine yn 'e holle.「私は頭がすごく痛い」(← ôfgryslik「すごい」) (Sytstra/Hof 1925: 97 変更)

中性名詞単数形では強調の語尾 -en は現われない。

Sa'n {*fluch/*fluggen*} hynder hawwe wy noait sjoen.「そんなに速い馬は私たちは見たことがない」(it hynder「馬」)

指示代名詞や名詞複数形でも強調の語尾 -en は現われない。

Dy {*drege/*dregen*} baas mei ik net lije.「あの厳しい上司には私は耐えられない」(← dreech「厳しい」)

Se binne gjin {*hjitte/*hjitten*} patriotten.「彼らは大変熱烈な愛国主義者というわけではない」(← hjit「熱烈な」, patriot「愛国主義者」)

☞ 強調の語尾 -en は不定冠詞 in に由来する。たとえば，sa'n swieten dream

「そんな甘い夢」という表現は次のようにして生じた。すなわち，sa'n (= sa in) dream「そんな夢」という名詞句において，形容詞 swiet「甘い」が sa の直後に挿入されて sa swiet in dream となり，不定冠詞 in が例外的に形容詞 swiet の後に位置することから，当時の男性単数強変化の語尾 -en との類推で形容詞の変化語尾と解釈され（swiet　in → swiet-in → swieten），その結果，新たに swiet の直前に不定冠詞 in を挿入した。このことから強調の語尾 -en が中性名詞単数形，指示代名詞，名詞複数形とは共起しない理由が説明される。かつてはオランダ語にも同様の語尾があったことが知られている（Van der Meer 1987）。
次の英語の例を参照。
エ．so sweet a dream「そんな甘い夢」
次のようには言わない。
{*sa swiet in dream/*in sa swiete dream}「同上」

(4) 形容詞の名詞化

(a) 語形変化

形容詞が名詞を伴わずに名詞句としてはたらくことを形容詞の名詞化という。以下にまとめて示す（例．goed「良い」）

人：		物事：	
単数		単数	
{in/gjin/sa'n/ien}	goede	{in/gjin/sa'n/ien}	goede
{myn/Jelles}	goede	{myn/Jelles}	goede
{de/dizze}	goede	{it/dit}	goede
複数		複数	
ϕ	goeden	ϕ	goede(n)
{gjin/sokke}	goeden	{gjin/sokke}	goede(n)
{myn/Jelles}	goeden	{myn/Jelles}	goede(n)
{de/dizze}	goeden	{de/dizze}	goede(n)

語尾は限定用法の場合に似ているが，一部で異なり，複数で人を示すとき

には -en を用い，物事を示すときには -e または -en を用いる。

① 複数の人：-en

Oaren tinke sa't jo ek tinke.「あなたが考えているように他の人たちも考えている」(← oar「他の」) (ULI'S, A 16: 7 変更)

Sport is foar *de measten* in foarm fan ferdivedaasje.「スポーツは大部分の人々にとって娯楽のひとつの形式である」(← meast「大部分の」) (Bangma 1993[2]: 154 変更)

② 複数の物事：-e(n)

Fan myn boeken binne dit *de âldste(n)*.「私の本の中ではこれらがいちばん古いものです」(← âld「古い」) (Hoekema 1992: 4)

(b) 語尾 -en との使い分け

形容詞の名詞化のほかに，単数形の一部では語尾 -en ((3)(a)) による表現も可能である。この場合，人を示すときには語尾 -en のほうが好まれる (Hoekema 1992: 4)。

① 単数の人：語尾 -en

Dy man moast mei oppasse: dat is *in minnen*.「あの人には気をつけなさいよ。悪い人だから」(← min「悪い」) (Hoekema 1992: 4 変更)

② 単数の物事：-e(n)

Sjochst dy tafel? Wat *in grutte(n)*!「あのテーブル見える？　なんて大きいんでしょう」(← grut「大きい」) (ib. 4)

(5) 語尾 -s

不定代名詞に続く形容詞で用いる。

wat bysûnders「何か特別なもの」(← bysûnder「特別な」)

folle goeds「たくさんの良いもの」(← goed「良い」)

neat betters「何ももっと良いもの..でない」(← better「もっと良い」)

wat foar moais「どんなすてきなもの」(← moai「すてきな」)

☞ ドイツ語の etwas Neues「何か新しいもの」，オランダ語の iets nieuws「同左」などと同様に属格の語尾に由来する (§ 31 (2)(a)⑦)。

(6) learaar Frysk「フリジア語教師」など

形容詞は名詞の前に置くのが原則である。しかし，次の①の例のように形容詞を名詞の後に置くことがある。

① in learaar Frysk「フリジア語教師」
in kursus Frysk「フリジア語講習」
in wurdboek Frysk「フリジア語辞書」

② in Fryske learaar「フリジア人の（＝フリースラント生まれの）教師」
in Fryske kursus「フリースラントにかんする講習」
in Frysk wurdboek「フリースラントにかんする辞書，フリジア語辞書」

上記の①の Frysk は直前の名詞の性と数に関係なく無変化であり，名詞を含めた表現全体の意味が固定している。この場合の Frysk は直前の名詞とともに全体で１語の複合語のようになっていると考えられる。この種の表現は固定しており，少数の場合に限られる。

①と②を組み合わせた次のような表現に注意。

in Japanske learaar Frysk「日本人のフリジア語教師」

☞ オランダ語にも同様の区別がある。
een Japanse leraar Fries「日本人のフリジア語教師」
ドイツ語では次のように言う。①では Friesisch（＝Frysk）を無変化のまま名詞の前に置いて，１語の複合語としてつづる。
ein Friesischlehrer「フリジア語教師」
ein friesischer Lehrer「フリジア人の教師」
ein japanischer Friesischlehrer「日本人のフリジア語教師」
周知のように，英語では次のようにアクセントで区別する。
a Frísian teacher「フリジア語教師」
a Frísian téacher「フリジア人の教師」
a Japanese Frísian teacher「日本人のフリジア語教師」

(7) 形容詞句の語順

(a) 名詞句を伴った形容詞句

名詞句を伴った形容詞句は‘名詞句＋形容詞’の語順がふつうである。

Dat is perfoarst *de muoite wurdich.*「それはきっと努力に値する」(Bangma 1993²: 185 変更)

Wy binne *ûs buorlju tankber.*「私たちはお隣りの人たちに感謝しています」(Fridsma 1979: 27)

De hûn is *har* tige *trou.*「その犬は彼女にとても忠実だ」(ib. 27)

(b) 前置詞句を伴った形容詞句

前置詞句を伴った形容詞句では '前置詞句＋形容詞' のほかに '形容詞＋前置詞句' の語順も許される。

Sy is {*op har soan grutsk/grutsk op har soan*}.「彼女は息子が自慢だ」

(8) 冠飾句

限定用法では限定詞と名詞のあいだに長く複雑な形容詞句（分詞句，不定詞句を含む）をはさみこむ，いわゆる「冠飾句」が見られる。とくに文章語で多い。

① 形容詞によるもの

de *oant no ta lêste* Alvestêdetocht「今までに最後のオルヴェステーデトホト（フリースラントの伝統的な長距離スケート競技）」(ULI'S, B 5: 7 変更)

② 分詞によるもの

mei de hân skreaune ferhalen「手で書きとめられた物語」(skreaun ← skriuwe「書く」) (ULI'S, A 15: 8 変更)

Dit jout der in *moai en mei sin wat oerdreaun* foarbyld fan.「これはそれについての巧妙かつ意図的に少々誇張された例になる」(oerdreaun ← oerdriuwe「誇張する」) (Breuker et al. 1992²: 17 変更)

De nestor fan de Fryske skriuwers wie sûnder mis de *oer de njoggentich jier âld wurden* Obe Postma.「フリジア人作家の長老は疑いなく，90 才を越えたオーベ・ポストマだった」(wurden ← wurde「..になる」) (Stienstra 1982: 127)

③ 'te＋動名詞' によるもの

'te＋動名詞'による不定詞句も「..され得る,..されるべき」という受動の可能・必然の意味を表わす冠飾句をつくる。

dy *nij oan te lizzen* rykswei「新たに建設されることになっているあの国道」(ULI'S, B 5: 7 変更)

de *ûnder de bern te ferdielen* reade flachjes「子供たちに配られることになっている赤い小旗」(Boersma/Van der Woude 1980²: 79)

§ 35 比較 (de graadbûging/de treppen fan ferliking)

(1) 語形変化

比較による変化には原級 (de grûntrep)，比較級 (de fergrutsjende trep)，最上級 (de oertreffende trep) の区別がある。比較級は原級に -er をつけ，最上級は原級に -st をつける。語末音の無声化などによる子音の発音と正書法に注意。

hurd [høt]「速い」－hurder [hǿdər]－hurdst [høst]

fiis [fi:s]「いやな，不潔な」－fizer [fí:zər]－fiist [fi:st]

leech [le:x]「低い」－leger [lé:γər]－leechst [le:xst, le:kst]

leaf [lIəf]「いとしい」－leaver [lÍəvər]－leafst [lÍəfst]

(a) {mear/meast}＋原級

少数の形容詞の比較級は 'mear [mIər]＋原級'，最上級は 'meast [mIəst]＋原級' となる。

① 形容詞になりきっていない過去分詞，とくに -e で終わるもの：

比較級 'mear＋原級'－最上級 'meast＋原級' (Hoekema 1992: 2)

útrûpele [ýtrupələ]「おろそかにされた」－mear útrûpele－meast útrûpele (← útrûpelje「おろそかにする」)

形容詞になりきっている過去分詞には比較級 -er，最上級 -st を用いる。

ferlegen [fəlé:γən]「当惑した」－ferlegener－ferlegenst

② -sk，-st で終わる形容詞：最上級 'meast＋原級' (ib. 2)

Deensk [de:ⁿsk]「デンマーク的な」－Deensker－meast Deensk

fêst [fɛ:st]「じょうぶな」－fêster－meast fêst

(b) 不規則なもの

goed [guət]「良い」－better [bɛ́tər]－bêst [bɛ:st]

ただし，次の場合は規則的に変化する。

goed [guət]－goeder [gûədər]－goedst [guəst]「人の良い，善良な」(Sipma 1913: 63, Fridsma 1979: 51, Boersma/Van der Woude 1980²: 26)

Hy is folle *goeder* as syn heit.「彼は父親よりもずっといい人だ」(Fridsma 1979: 51)

folle [fɔ́lə]「たくさんの」－mear [mIər]－meast [mIəst]

ier [iər]「早い」－earder [jɛ́dər]/ierder [íədər]－earst [Iəst]/ierst [iəst]

graach「貪欲な；好んで」－leaver [ljɛ́vər, ljɔ́:wər]「むしろ」－leafst [ljɛst, ljɔ:ust]「いちばん（..したい）」

let [lɛt]「遅い」－letter [lɛ́tər]－lêst [lɛ:st]

(c)「割れ」(§10) や「d の挿入」(§18(4)) を伴うもの

① 「割れ」を伴うもの

moai [mo:i]「美しい」－moaier [mɔ́:jər, mwájər]－moaist [mɔ́:ist, mwaist]

② d の挿入を伴うもの

子音 r で終わる形容詞と min「悪い」では規則的に d を挿入する。

tear [tIər]「弱い，敏感な」－tearder [tÍədər]－tearst [tIəst]

tsjuster [tʃǿstər]「暗い」－tsjusterder [tʃǿstədər] －tsjusterst [tʃǿstəst]

lêsber [lɛ́:sbər] 「読める，読みやすい」－ lêsberder [lɛ́:sbədər] － lêsberst [lɛ́:sbəst]

min [mIn]「悪い」－minder [mÍndər]－minst [me:ⁿst]

子音 n，I で終わる形容詞（min「悪い」を除く）では任意である。

tin [tIn]「薄い」－tinder [tÍndər]/tinner [tÍnər]－tinst [te:ⁿst]

mâl [mɔ:l]「奇妙な，愚かな」－mâlder [mɔ́:ldər]/mâler [mɔ́:lər]－mâlst [mɔ:lst]

simpel [sÍmpəl]「簡素な」－simpelder [sÍmpəldər]/simpeler [sÍmpələr]－simpelst [sÍmpəlst]

③「割れ」と d の挿入を伴うもの

fier [fiər]「遠い」－fierder [fjÍdər]－fierst [fjIst]

swier [swiər]「重い，難しい」－swierder [swÍdər]－swierst [swIst]（§ 10 (1)(b)③）

djoer [djuər]「高価な」－djoerder [djúədər, djǿdər]－djoerst [djuəst, djøst]

(2) 用法

(a) 原級

同等比較は '{sa [sa]/like [líkə]} A as [ɔs] B'「B ほど A だ」で表わす。

① '{sa/like}＋原級＋as＋名詞句など'

Do bist {*sa/like*} *grut* {*as* hy/*as* him/**as* er}.「君は彼と同じくらいの背の高さだ」（as him は口語的）

☞ *as er が許されないことについては§ 38 (2)(b)②参照。

その他の用例。

Sa egaal plat en sa grien as in biljertlekken is allinne Fryslân mar.「ビリヤードの板のようにこれほど一様に平らで，これほど緑なのはフリースラントだけだ」（Bosma-Banning 1981[2]: 154 変更）

② '{sa/like}＋原級＋as＋従属文'

as に後続する文は従属文になる。

Do bist {*sa/like*} *grut* {*as* hy is/*as* er oait wurde sil}.「君は {彼がそうである/彼がいつかそうなる} のと同じくらいの背の高さだ」

その他の用例。

De minsken wurde *sa loai as* it mar kin.「人間はどうしようもないほ

ど（＝可能なかぎり）無精になる」(ULI'S, A 18: 8)

次の例では比較の対象を示す要素が指示代名詞 dat で表わされている（§ 41 (1)(a)④)。この dat はなくてもいい。

Dy wiidte mei de pleatsen en de kij is foar de bûtenlanners *like unyk as* de bergen en wetterfallen *dat* foar ús binne.「外国人にとって農場や乳牛の姿がある平野は，ちょうど私たちにとって山や滝のように（＝山や滝がそう［dat＝unyk］であるように）珍しい」(Bosma-Banning 19812: 155 変更)

③ 'sa＋原級＋mooglik'「できるだけ..」

Wy hâlde de priis *sa leech mooglik.*「私たちは価格をできるだけ低くおさえます」

(b) 比較級

比較の対象は原級の場合と同様に as「..よりも」を用いて表わす。

① 限定用法の語尾

比較級では限定詞（冠詞・代名詞・属格など）がない場合には，両性名詞でも単数形は無語尾である（Tiersma 1985: 53; § 34 (2)(c)⑥)。

{*Better*/**Bettere*} molke bestiet net.「これ以上良いミルクはない」

② '比較級＋as＋名詞句' など

Do bist *grutter* {*as* hy/*as* him/**as* er}.「君は彼よりも背が高い」(as him は口語的)

☞ *as er が許されないことについては§ 38 (2)(b)②参照。

その他の用例。

Wy fiele ús neat *better of minder as* de oare ynwenners fan it keninkryk.「私たちは自分たちのことを王国（＝オランダ）の他の住民より良くも悪くも思っていない」(Bosma-Banning 1981[2]: 155 変更)

It liket faak dat de frouljusmoade *hurder* feroaret *as* de manljusmoade.「女性のファッションは男性のファッションよりも早く変わることが多いようだ」(ULI'S, C 11: 5 変更)

③ ‘比較級＋as＋従属文’

as に後続する文は原級による同等比較と同様に従属文になる。

Do bist *grutter* {*as* hy is/*as* er oait wurde sil}.「君は｛彼がそうであるよりも/彼がいつかそうなるよりも｝背が高い」

次の例では比較の対象を示す要素が指示代名詞 dat で表わされ，補文標識の位置に置かれている（§ 41 (1)(a)④）。この dat はなくてもいい。

Fryslân hat doe grif gâns *grutter* west *as dat* it hjoeddedei is.「フリースラントは当時，今日（それがそう［dat＝grut「大きい」］である）よりもたしかにずっと大きかった」(ULI'S, C 20: 8)

Ik hoech my net *jonger* foar te dwaan *as dat* ik bin.「私は自分がそう［dat＝jong「若い」］であるより若く見せるのは好きではない」(Bangma 1993²: 29)

④ ‘{wat/hoe}＋比較級＋従属文，{wat/hoe}＋比較級＋従属文’「..であればあるほど...だ」

これはふたつの従属文が並列した構文（「...であること，それすなわち..であること」）である。この場合，比較級の後に補文標識 ’t， as や補文導入要素 oft（← of＋dat）が現われることがある。ただし，現われない場合もある。

☞ ’t，as，oft の使い分けとその有無をはっきり特定することはむずかしい (De Rooy 1965)。

Hoe mear't men de duvel jout, *hoe mear't* er ha wol.「悪魔はものをやればやるほどもっと欲しがる（ことわざ）」(Beintema 1990: 30)

Wat mear as de sinne op 'e kjitte skynt, *wat mear as* it stjonkt.「汚物に日が射せばそれだけ臭う（＝焼け石に水。ことわざ）」(Beintema 1990: 76)

Wat mear oft de sinne op 'e kjitte skynt, *wat mear oft* it stjonkt.「同上」(Zantema 1984: 495)

Wat earder ϕ de moade feroaret, *wat mear* ϕ der ferkocht wurdt.「流行が早く変われば変わるほどそれだけ多く売れる」(ULI'S, C 11: 12)

Hoe âlder en brekfalliger ϕ sa'n toer liket, *hoe moaier* ϕ it is.「そんな塔は古く，崩れ落ちそうに見えれば見えるほど美しい」(ULI'S, B 20: 9 変更)

☞ 類似した構文として，ふたつの名詞句（先行詞を兼ねる関係代名詞で導かれた関係文）が並列された次の例を参照。
Dy't skriuwt, *dy't* bliuwt.「書く者は長らえる（＝書く者，それすなわち長らえる者。ことわざ）」(Beintema 1990: 123 変更)

⑤ 'mear＋｛形容詞原級/名詞｝＋as'「..よりむしろ..だ」

Hy is *mear* loai *as* dom.「彼は愚かというより怠惰だ」

Hy is *mear* wittenskipper *as* learaar.「彼は教師というより学者だ」

(c) 最上級

① 独立用法

'it＋最上級 (-e)' となる。

Elk is himsels *it neist.*「だれでも自分がいちばんかわいい（＝もっとも近い。ことわざ」(Beintema 1990: 33)

Eigen bier smakket *it bêst.*「自分で作ったビールがいちばんうまい（ことわざ）」(ib. 18)

Wy sjitte *it hurdste* op as jo de jurk oanlûke.「ドレスをお召しになりましたらすぐにまいります」(Bangma 1993[2]: 28 変更)

Moarns is ûs mem der altyd *it earste* ôf.「朝は母がいつもいちばん早く起きる」(ULI'S, B 13: 18 変更)

最上級は述語的用法では形容詞の名詞化によっても表現できる。

Elk is himsels *de neiste.*「だれでも自分がいちばんかわいい（＝もっとも近い。ことわざ」(Beintema 1990: 33)

it を欠いた無語尾の最上級による次の表現は古風で文語的である (Dykstra 1985: 91)。

Se is *âldst.*「彼女がいちばん年長だ」(Tiersma 1985: 53)

☞ Sipma (1913：63) にはまだその記載がない。なお，Tiersma (1985：53) は上記の例をまったく注記なしに挙げている。

② 限定用法

最上級は限定用法でつねに語尾 -e を伴う。

Dokkum is ien fan de *âldste* stêden yn Fryslân.「ドクムはフリースラントでいちばん古い町のひとつだ」(ULI'S, B 17: 22)

De *wiiste* moat tajaan.「もっとも賢い者は譲らなければならない」(Zantema: 1984: 1028)

中性単数でも語尾 -e を伴うことに注意（§ 34 (2)(d)①）。

Dit is Paulus Akkerman syn *moaiste* ferhaal.「これはパウルス・アケルマンのいちばんすばらしい話（＝短編）だ」(it ferhaal「話」)

Yn 'e 18de ieu berikte de Fryske pleats syn *heechste* punt.「18 世紀にフリースラントの農家の建物はいちばん高さが高くなった（＝もっとも高い点に達した）」(it punt「点」)（ULI'S, B 11: 7 変更）

次の例は形容詞の名詞化であり，'it＋最上級 (-e)' を用いることはできない。

De measte plaknammen yn Fryslân geane út op '-um'. Dat binne ek mei fan {*de âldste/*it âldst(e)*}.「フリースラントの大多数の地名は -um で終わる。それはまたもっとも古い地名に属する」(ULI'S, B 17: 17 変更)

Yn dit doarp wenje in soad âlde minsken. Jappe is ien fan {*de âldsten/*it âldst(e)*}.「この村には高齢者がたくさん住んでいる。ヤペはもっとも高齢の人のひとりだ」

③ 2 者のあいだの比較

対象の数がふたつに限定されている表現では，2 者のあいだの比較でも最上級を用いることができる。

De {*jongste/jongere*} fan syn twa dochters is seis jier (âld).「彼のふたりの娘のうちで小さいほうは 6 歳です」

☞ オランダ語でも同様に最上級を用いることができる。

オ．De {*jongste/jongere*} van zijn twee dochters is zes jaar (oud).「同上」

④ bêst「とても良い」

bêst（← goed）は「とても良い」の意味でも用いる。

De boer hat in *bêst* hynder.「その農夫はとてもすばらしい馬をもっている」(Bosma-Banning 1981²: 28)

As it sa bliuwt, is 't net *bêst*. Mar ik hoopje op bettere tiden.「このままであっては良くない。しかし，私はより良い時が訪れるのを願っている」(ULI'S, A 13: 8)

"Hoe giet it mei jo?" "Net sa *bêst*."「調子はどうですか」「あまり良くないんです」

It slagget net sa *bêst*.「それはあまりうまくいかない」(ULI'S, B 6: 8)

☞ その他の形容詞はドイツ語のように「きわめて...」という意味で最上級（絶対最上級）を用いることはない。オランダ語も同様。
ド．Sie singt *aufs schönste*.「彼女はきわめて美しく歌う」
フ．Sy sjongt *tige moai*.「同上」
オ．Ze zingt *heel mooi*.「同上」

参考文献

（前回までに掲載したものを除く）

Beintema, Tabe. 1990. *Goed zo, Sicco / Maoi sa, Sikke. Frysk sprekwurdeboek mei Nederlândske oersetting, ferklearring of taljochting / Fries spreekwoordenboek met Nederlandse vertaling of toelichting.* Drachten/Ljouwert. Osinga.

Breuker, Pieter. 1982. "Ta de oergong ke>tsje yn it ferlytsingswurd". *It Beaken* 44. 85-95.

Breuker, Pieter, e.o. 1992². *Foar de taalspegel. Koart oersjoch fan Hollândske ynslûpels yn it Frysk.* Ljouwert. AFUK.

De Rooy, J. 1965. *Als-of-dat. Enkele conjuncties in ABN, dialect en Fries.* Assen. Van Gorcum.

Dykstra, Anne. 1985. "Besprek: *Pieter Meijes Tiersma, Frisian Reference Grammar*". *Tydskrift foar Fryske Taalkunde* 1. 90-98.

Fridsma, Bernard J. 1979. *Introduction to Frisian.* Grand Rapids, Michigan. Calvin College.

Hoekema, Teake. 1992. *Kurze Formenlehre des Westerlauwersk Frysk. Aus V. Tams Jörgensen und Teake Hoekema: Frisisk-dansk ordbog med en kort-*

fattet frisisk formlære. (Grins/Groningen 1968). Aus dem Dänischen übersetzt von Claas Riecken. Kiel. Nordfriesische Wörterbuchstelle der CAU Kiel. (*Didactica Frisica* 9)

Hoekstra, Jarich. 1992. "Ferlytsing en syn njonkenkategoryen". *Philologia Frisica 1984.* Ljouwert. Fryske Akademy. 131-150.

Piebenga, Jan. 1957. *Koarte skiednis fan de Fryske Skriftekennisse.* Drachten. Laverman.

Sytstra, O. H./J. J. Hof. 1925. *Nieuwe Friesche Spraakkunst.* Leeuwarden. R. van der Velde.

Stienstra, J. 1982. *Taalboek foar begjinners.* Ljouwert. AFUK.

Tamminga, D. A. 1973. *Op 'e taelhelling* II. Boalsert. Osinga.

Van der Meer, Geart. 1987. "It is in dregen baas. De bûgings' *-(e)n* bij eigenskipswurden". *Us Wurk: Tydskrift foar frisistyk* 36. 97-111.

Van der Woude, G. 1981. *Frjemd wurdt eigen* I. *Learboek foar it oanlearen fan Frysk.* Ljouwert. AFUK.

＊本稿は筆者の以下の論文に続く西フリジア語の文法構造の記述である。
「西フリジア語の音韻と正書法 (1)」(北海道大学文学部紀要 44-1. 第85号. 1995. 37-81)
「西フリジア語の音韻と正書法 (2)」(北海道大学文学部紀要 44-2. 第86号. 1995. 43-111)
記述上の問題点については筆者の次の論文を参照。
「西フリジア語文法記述の問題点」(北海道大学文学部紀要 44-3. 第87号. 1996. 41-107)

＊本稿は平成7年度文部省科学研究費補助金による研究成果の一部である。
研究課題：「大陸部北海沿岸の西ゲルマン語相互の言語接触と類型論的特徴の変化」. 奨励研究（A）. 課題番号 07710346